2020年度

事　業　概　要

南部地域療育センターそよ風

南部地域療育センターそよ風

通園部「子ども像」

いのちを守り、いのちをつよくする子ども
ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
人とともに育ちあえる子ども

相談診療部「理念」

「児童憲章前文」

児童は、人として尊ばれる
児童は、社会の一員として重んぜられる
児童は、よい環境の中で育てられる

私たちは、この「児童憲章前文」の精神を大切に、次のことを目指します。

生命と人権の尊重
- 子どもたちの一人一人の生命をかけがえのないものとして大切にします
- 子どもの人権を守り、最善の利益を追求します

家族や地域とともに
- 子どもや保護者から学び、ともに育ちあう関係を大切にします
- 地域の機関、組織と連携し、子どもや家族が地域で豊かに生活できることを目指します
- 社会に目を向け、協働して現状の変革に努めます

療育の追求
- 子どもが主体的に生きることを大切にします
- あそびや生活を豊かにし、人と関わる力を育てます
- 豊かな人間性と、科学的な視点を持ち、療育の専門性を追求します

は　じ　め　に

私にとって最後の「はじめに」になる。一昨年も述べたが「集団の教育力」について再論したいと思う。よく個人と集団の関係が問題になるが、たとえれば、「一人は万人のために、万人は一人のために」ということであろう。「集団の教育力」は主に後者をさす。ひとりではできないが、みんなと一緒ならできるということはよくあることである。

教育には直接教育と間接教育とある。直接教育とは、保育者等が子どもを直接教育することで、障害児では比重は軽くない。間接教育とは集団を介した教育であり、これが集団の教育力である。三つの要因が関係する。第１は、子どもが遊んだり、活動したりするための能力発達の水準、第２は、話し合ったり、協力し合ったりするための社会性の発達水準、第３は、第１、第２の発達をうながす保育者の指導力である。

集団の教育力の３群について述べようと思う。

①集団の渦である。大好きな仲間と一緒に楽しい遊びをしているような雰囲気である。一人ではできないようなことができたりする。ただこの場合保育者が盛り上げるためにパターン的に、手遊び、ピアノ、歌などを道具として使っているのが気になる。子どもの要求をどう育てるかである。

②集団の構成を変える。安心できる基礎集団を保障しながら、発達水準が近くて、異質な集団がよいとされている。模倣、憧れ、自分にないものを知るなどをねらっている。保育園では、統合保育や異年齢保育が該当しよう。通園部では年度末には頭を痛めている。

③通常保育や行事で話し合ったり、協力しあったりする場合である。集団の教育力は活動の種類によって違うという。しかしこの本質的な問題は未解決である。ただ通園部の行事をみていると、「保育者のねらい」というのがあり、これが活動別の集団の教育力に近いかもしれない。整理していく必要がある。以下に定型発達児ではあるが、３歳児の話し合いを例示したいと思う。

保　「みんなは遊んでいた玩具を、どうしてかたづけるの？」
Ｋ夫「アツマリニナルカラ」
Ｔ子「先生ガ言ウカラ、カタツケル」
保　「先生がいわない時は、かたつけないの？」
Ｔ子（うなずく）
保　「保育園の玩具は、先生のかしら？」
Ｔ志「玩具は、ミンナノモノダモン」
保　「かたづけないで。ほっぽりだしておいたら、どうでしょう！」
Ｒ子「玩具ガナクナッチャウ」
（　中　略　）
Ｔ子「ヤッパリ、チガウ、玩具ガヘッチャウカラ、カタツケルノ」
Ｒ子「ミンナガ、ピッチリ、カタツケルノヨ」

この場合、話し合いが教育力であり、「使ったものはかたつけなければならない」という社会的規範を教えている。

2020 年 6 月

南部地域療育センターそよ風
所長　　堀　江　重　信

目　　次

第１　施設の概要 …… 1
1. 施設の目的 …… 1
2. 設 置 運 営 …… 1
3. 施 設 構 成 …… 1
4. 法人の経緯 …… 1
5. 建物の概要 …… 3
6. 事業の概要 …… 3
(1) 事業の種類 …… 3
(2) 担 当 地 域 …… 3
(3) 組織・職員体制 …… 4
(4) 相談の流れ …… 5

第２　発達相談事業 …… 6
1. 新 規 相 談 …… 6
2. 発達検査および発達相談 …… 10
(1) 新規相談児童の発達検査 …… 10
(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談 …… 10
(3) 検査結果 …… 11
3. 療育グループ …… 12
(1) 就園前グループ …… 12
(2) 就園前グループアフターのつどい …… 17
(3) その他の就園前グループ …… 18
(4) 並行グループ …… 19
4. 保護者向け学習会 …… 23
(1) 年長児保護者向け学習会 …… 23

第３　医 療 事 業 …… 24
1. 診　　療 …… 24
(1) 小　児　科 …… 24
(2) 整 形 外 科 …… 29
(3) 耳鼻咽喉科 …… 31
(4) 精　神　科 …… 33
(5) 検　　査 …… 34
(6) 診断書等発行 …… 34
2. 訓　　練 …… 35
(1) 理 学 療 法 …… 35
(2) 作 業 療 法 …… 39
(3) 言語聴覚療法 …… 43
(4) 生 活 支 援 …… 47
(5) 保護者向け学習会 …… 49
(6) 音 楽 療 法 …… 49

第４　通園事業 …… 51
1. 施設概要 …… 51
(1) 定　　員 …… 51
(2) 対象児童 …… 51
(3) クラス編成 …… 51
(4) 通園形態 …… 51
(5) 親子通園の種類 …… 51
(6) 通園バス …… 51
2. 療育内容 …… 51
(1) 子ども像 …… 51
(2) 療育の視点 …… 51
(3) 療育計画 …… 53
3. 家族援助 …… 57
4. 見守り一時支援 …… 58
5. 2019 年度のまとめ …… 59
6. 児童の状況 …… 60

第５　地域ケア事業 …… 62
1. 地域連絡調整 …… 62
2. 巡回療育指導 …… 64
3. 訪問療育指導 …… 65
4. 通園部アフターケア …… 66
5. アフターケア …… 67
6. そよ風広場 …… 68
7. 兄弟プログラム …… 68
8. 施設・プール開放 …… 68
9. 地域啓発・ボランティア育成 …… 69

第６　児童デイサービス …… 70
1. デイサービス ACT（児童発達支援事業所） …… 70
2. デイサービス ACT（放課後デイサービス） …… 71
3. デイサービスみどりそよ風（児童発達支援事業所） …… 72
4. デイサービスみどりそよ風（放課後等デイサービス） …… 73

第７　障害児相談支援事業所 …… 74

資　　料　　センター利用者数の 10 年間の推移（2010 年度～ 2019 年度） …… 76

平面図 …… 79

第１　施設の概要

１　施設の目的

南部地域療育センターそよ風は、障害のある子ども、発達の遅れや育ちに不安のある子ども等地域のすべての子どもの成長、発達を支援する。同時に、地域のなかで障害児とその家族があたりまえに暮らすための地域生活支援を行うことを目的に、通園事業、医療（訓練）事業、発達相談事業、地域ケア事業、生活支援事業、専門事業をすすめる。

２　設置運営

社会福祉法人　名古屋キリスト教社会館

３　施設構成

南部地域療育センターそよ風
- 福祉型児童発達支援センター（定員 50 名）
- 愛育診療所

・保険医療機関指定
・生活保護法医療機関指定
・公害医療機関指定
・指定自立支援医療医療機関指定
・運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
・脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認
・障害児（者）リハビリテーション基準承認　等

４　法人の経緯

1961 年　3 月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961 年　4 月	社会館保育部認可
1966 年　4 月	心身障害幼児の通園施設「愛育園」開設
1973 年　4 月	「愛育園」（知的障害児通園施設、定員 30 人）認可
1987 年　3 月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989 年　7 月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992 年　2 月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996 年　4 月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998 年 10 月	障害児（者）地域療育等支援事業
1999 年　4 月	自立訓練ホーム・レスパイトケア開始
2000 年　3 月	名古屋キリスト教社会館第二次将来計画 21 世紀福祉プラン策定
2000 年　9 月	自立ホーム　のどか、うらら開始（無認可）
2001 年　4 月	「南・緑生活支援センター　のどか」開始
2002 年　4 月	グループホーム「のどか」「うらら」認可
2002 年　7 月	障害児者地域生活支援センターみなみ開始

2003年　1月	「生活支援センターぴぼっと」開始
2003年　4月	支援費制度開始
	知的障害児通園施設　名古屋市立あつた学園　名古屋市より運営移管
	「発達センターあつた」開始
	知的障害児通園施設　名古屋市立ちよだ学園　名古屋市より運営移管
	「発達センターちよだ」開始
	児童デイサービスちよだ開始
	児童デイサービスACT開始　グループホーム「天歩」開始
2003年　6月	子どもセンターみどり開所　児童デイーサービスみどり開始
2004年　6月	児童デイサービスあつた開始
2006年　4月	障害者自立支援法施行
2006年　6月	ケアホーム「ホームしゃかいかん」開始
2006年10月	障害者自立支援法本格施行に伴う児童福祉法の改定により通園施設が契約制度に
2007年　4月	事業体系移行にともない生活介護事業開始　定員20名
2009年　8月	社会館「生活支援センターぴぼっと」竣工
2010年　7月	「名古屋キリスト教社会館　東館」開所
2010年　8月	東館2階　療育グループ専用室確保
2010年　9月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館　創立50周年
2011年　3月	ケアホーム5か所目「いっぽ」開始
2012年10月	相談支援事業所ぴぼっと開所
2012年12月	みどり菜の花開始
2013年　3月	子どもセンターとくしげ開始
2013年　5月	児童発達支援事業所　みどり　そよ風　開所
2013年　7月	障害児相談支援事業所　そよ風
	障害児相談支援事業所　あつた
	障害児相談支援事業所　ちよだ
2014年　4月	「社会館障害者基幹相談支援センター」（コンソーシアム）開所
2014年　6月	「東部地域療育センターぽけっと」開所
2016年　4月	多世代交流西館開所。南部地域療育センターそよ風　通園部
	定員50名に変更
2019年　4月	生活支援センターぴぼっと西館開所

5　建物の概要

敷地面積　　敷地　3,066.35㎡

構　　造　　本館：鉄筋コンクリート造 3 階建　東館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階部分
西館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階一部

規　　模　　建築面積
延べ床面積　本館：1,751㎡　東館：236.47㎡　西館：163.89㎡

併設施設　　・菜の花保育園（定員 170 人）　・デイサービス友（定員 25 名）
・名南ユースセンター ACT　・デイサービス ACT
・小規模多機能つどい　・子育て支援センターなのはな

6　事業の概要

(1) 事業の種類

- 事業
  - 発達相談事業
    - 相談、診断、検査、処遇方針作成
    - 療育グループ
  - 医療事業
    - 診療・小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、精神科
    - 機能訓練・理学療法、作業療法、言語聴覚療法、音楽療法
  - 通園事業（通園施設）
    - 単独通園、親子通園（新規、定例）
    - 見守り一時支援事業
  - 障害児相談支援事業
  - 地域ケア事業
    - 地域連絡調整、巡回療育指導、訪問療育指導
    - 学齢療育相談、アフターケア
    - 施設開放、プール開放、地域啓発、ボランティア養成
  - 生活支援事業
    - 障害児等療育支援事業
    - 自立訓練
  - その他の事業
    - 研究所

(2) 担当地域

事業区分	担当地域
発達相談事業 医療事業 地域ケア事業 通園事業	南区、緑区

〈参考〉

人口、面積（2019 年 4 月 1 日）

		名古屋市	南区	緑区	2 区合計
人口（人）		2,303,070	136,406 (5.9%)	243,466 (10.6%)	379,872 (16.5%)
児童人口	0～5 歳	114,635	5,920 (5.2%)	14,914 (13.0%)	20,834 (18.2%)
	0～17 歳	343,387	18,042 (5.3%)	45,836 (13.3%)	63,878 (18.6%)
面積（㎢）		326.45	18.47 (5.7%)	37.85 (11.6%)	56.32 (17.3%)

（3）組織・職員体制〔（　）内、嘱託職員・パート職員再掲〕（2019 年 4 月 1 日現在）

理事長
└所　長―副所長（園長兼務）

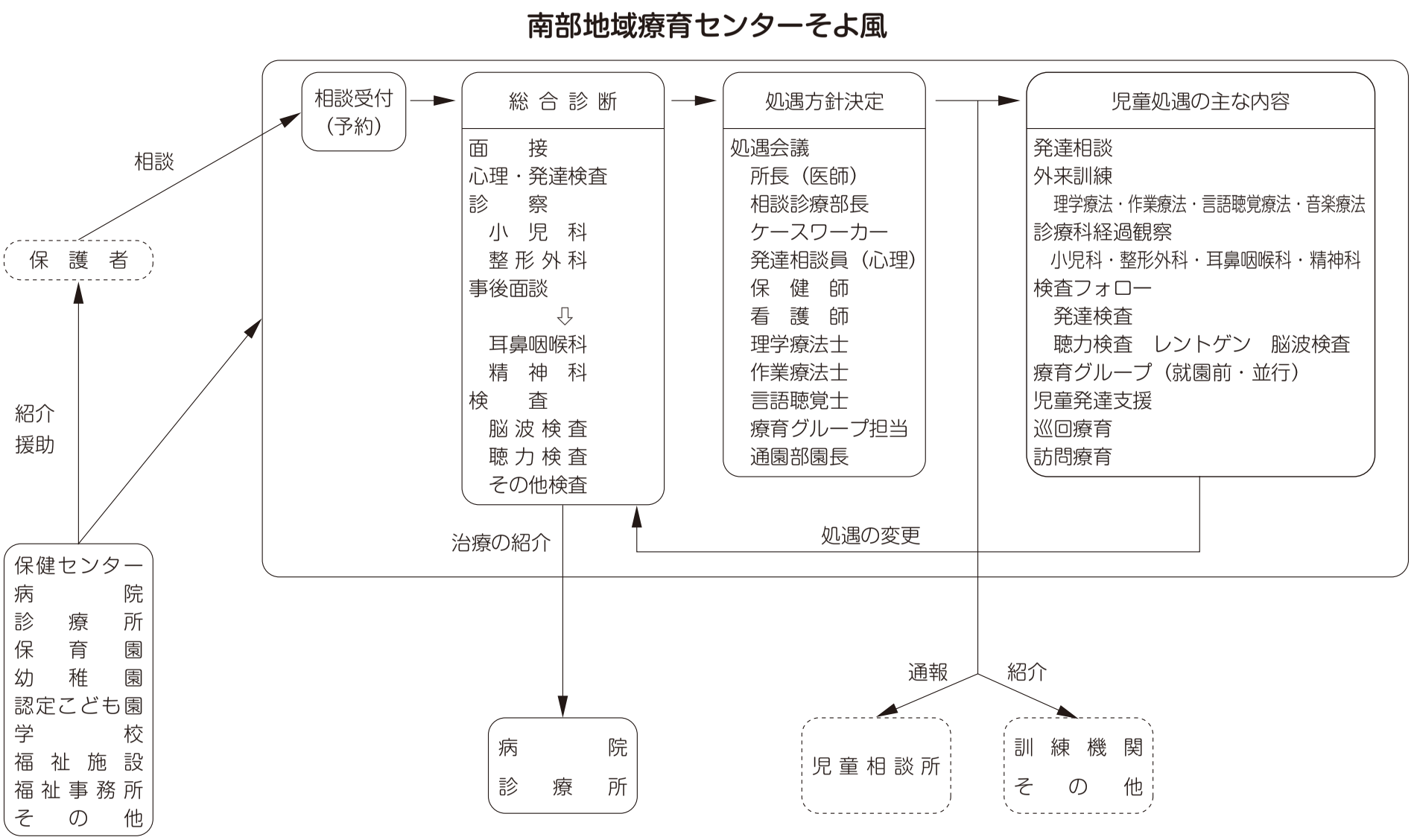
通園部
園　長
副園長

保　育　士	13（0）	調　理　員	1（0）
（児童発達支援管理責任者兼務 1）			
（相談支援員兼務 1）		事　務　員	1（0）
児童指導員	5（2）	運　転　士	5（5）
栄　養　士	2（1）		
看　護　師	1（0）		

相談診療部
部　長
副部長

ケースワーカー	2（1）	理学療法士	5（3）
発達相談員	3（0）	作業療法士	2（0）
保　育　士	6（5）	言語聴覚士	2（1）
児童指導員	3（0）	音楽療法士	1（1）
医　　師	6（5）	看護師・保健師	3（1）
技　　師	2（2）	業　務　士	1（1）
レセプト事務	1（1）	相談支援専門員	1（0）

（4）相談の流れ


南部地域療育センターそよ風
相談受付
（予約）
総 合 診 断
面　　接
心理・発達検査
診　　察
小　児　科
整 形 外 科
事後面談
⇩
耳鼻咽喉科
精　神　科
検　　査
脳 波 検 査
聴 力 検 査
その他検査
処遇方針決定
処遇会議
所長（医師）
相談診療部長
ケースワーカー
発達相談員（心理）
保　健　師
看　護　師
理学療法士
作業療法士
言語聴覚士
療育グループ担当
通園部園長
児童処遇の主な内容
発達相談
外来訓練
理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法
診療科経過観察
小児科・整形外科・耳鼻咽喉科・精神科
検査フォロー
発達検査
聴力検査　レントゲン　脳波検査
療育グループ（就園前・並行）
児童発達支援
巡回療育
訪問療育
相談
保　護　者
紹介
援助
保健センター
病　　院
診　療　所
保　育　園
幼　稚　園
認定こども園
学　　校
福 祉 施 設
福祉事務所
そ　の　他
治療の紹介
処遇の変更
通報
紹介
病　　院
診　療　所
児 童 相 談 所
訓 練 機 関
そ　の　他

第２　発達相談事業

１　新規相談

新規相談希望者は 10 年ほど前から増加しており、相談内容は発達障害に関連するものが多い。当センターでは「気になる段階からの支援」を主眼とし、「必要な子どもが」「必要な支援を」「必要な時期に」受けられるように初診やその後のフォローの在り方を構築してきた。2017 年度から 1、2 歳児を通常の初診とは違う方法で行い、2019 年度は 3 年目になった。それを評価するとともに今後の方法を検討した。

一方で名古屋市は 2020 年 3 月に「今後の名古屋市早期子ども発達支援体制に関する方針」を定め 2020 年度から 2024 年度までに地域療育センターの検討や整備を進めていくことを示した。従来の発達に遅れのある子どもへの支援に加え、発達のアンバランスさや育てにくさのある子どもを対象とし、子育て支援の施設と地域療育センターが連携して保護者を支援するシステムである。2020 年度 7 月から東部地域療育センターで導入されることを踏まえ、当センターでも今までの経過を踏まえたうえで、療育センターの役割や今後の方向性について見直しや検討をおこなった。

・新規相談は 1 週間に通常初診を 4 ケース、1.2 歳児受付初診は 5 ケース、合診は 1 ケースを実施した。年間の初診受診者総数は 432 人で、内訳は通常初診 175 人・1.2 歳児受付初診 220 人・合診 37 人である。1.2 歳児受付初診が 51% を占めている。1.2 歳児受付初診児の 220 人のうち在園児は 88 人で 40% である。
・1.2 歳児受付初診は当日に発達検査を行わないため、障害種別は「未決定」とした。障害種別と診断区分に未決定が多いのはこのためである。
・1.2 歳児受付初診 220 人中 90% 以上に自閉症スペクトラムの特性が見られた。
・障害種別・診断区分ともに未決定が半数を占めているが、子どもの状況を勘案すると全体の 7 割以上が自閉症に分類される。これは 2015 年度から変わっていない。
・2017 年度以降 1.2 歳児受付初診受診者のうち発達外来に至った者は以下のとおりである。受付初診の約半数がその後の診察を受けている。
　2017 年度初診 :103 人 /221 人（47%）（内 2019 年度受診　　9 人）
　2018 年度初診 :103 人 /213 人（48%）（内　　〃　　34 人）
　2019 年度初診 : 47 人 /220 人（21%）

表２－１　区別状況　　（2019 年度、単位：人）

区	就学前児童							計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
南　区	3	13	54	32	17	21	4	144	33.3
緑　区	9	29	89	85	36	25	11	284	65.7
港　区				4				4	0.9
計	12	42	143	121	53	46	15	432	100

注）年齢は初診時の満年齢である。

表２－２　名古屋市中央療育センター・地域療育センターの相談歴

（2019 年度、単位：人）

	緑区	南区	計
名古屋市中央療育センター	1		1
西部地域療育センター		2	2
北部地域療育センター	1		1
計	2	2	4

表２－３　主訴（症状）別状況　（2019 年度、単位：人）

主訴	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
言語発達		9	103	50	15	6	1	184	42.6
知的発達		1		15	7	9	4	36	8.3
運動発達		1	3	1				5	1.2
全体発達	12	21	5		1			39	9.0
性格行動		10	32	55	30	31	10	168	38.9
計	12	42	143	121	53	46	15	432	100

注）年齢は初診時の満年齢である。

表２－４　センターへの紹介経路　（2019 年度、単位：人）

紹介機関	就学前児童							小学生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年		
保健所	2	24	93	64	15	9			207	47.9
医療機関	8	9	13	8		4	1		43	10.0
保育園		2	13	27	22	14	4		82	19.0
幼稚園			2	5		2	1		10	2.3
認定こども園			4	5	5	5			19	4.4
学校						1			1	0.2
中央療育センター			1	1					2	0.5
地域療育センター		1			1	1			3	0.7
児童福祉施設									0	0.0
児童相談所				1		2	1		4	0.9
福祉事務所							1		1	0.2
いこいの家			1						1	0.2
知人		1	4	2		2	2		11	2.5
家族	1	2	9	2	4	4	2		24	5.6
その他	1	3	3	6	6	2	3		24	5.6
計	12	42	143	121	53	46	15	0	432	100

注）(1) 年齢は初診時の満年齢である。
(2) その他はインターネットなどである。

表２－５　障害種別状況　　（2019 年度、単位：人）

障害種別	就学前児童							計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
知的障害	5	3	1	6	5	2	1	23	5.3
自閉症		2	1	39	31	35	10	118	27.3
自閉症＋知的障害			1	6	8	2		17	3.9
肢体不自由＋知的障害	1							1	0.2
知的障害＋肢体不自由		2	1					3	0.7
肢体不自由	1			1				2	0.5
言語発達障害等		2	1	8	9	6	4	30	6.9
重症心身障害		1						1	0.2
その他	5	11				1		17	3.9
未決定		20	138	61				219	50.7
聴覚		1						1	0.2
計	12	42	143	121	53	46	15	432	100

注）(1) 年齢は初診時の満年齢である。
(2) 言語発達遅滞等には境界域、ADHD、吃音を含む。
(3) その他には、保健・性格行動を含む。
(4) 未決定は、発達検査が未実施のため障害種別が確定されていない者である。

表２－６　診断区分別状況　　（2019 年度、単位：人）

診断区分		就学前児童							計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
知的障害	ダウン症候群	3	1	1	1				6	1.4
	水頭症		1						1	0.2
	てんかん	1							1	0.2
	知的障害	2	3		5	5	1	1	17	3.9
自閉症			2	2	45	39	37	10	135	31.3
言語発達遅滞			2	1	1	3	3		10	2.3
構音障害					1	2			3	0.7
吃音							1		1	0.2
知的障害＋脳性麻痺				1					1	0.2
中枢性協調障害					1		1		2	0.5
急性脳症後遺症		2	2						4	0.9
その他神経疾患		1							1	0.2
境界域					3	1	1	1	6	1.4
多動症					3	3	2	3	11	2.5
正常域		1							1	0.2
整形外科疾患			2						2	0.5
未決定			20	138	61				219	50.7
その他		2	9						11	2.5
計		12	42	143	121	53	46	15	432	100

注）(1) 年齢は初診時の満年齢である。
(2) その他は運動発達遅滞等である。
(3) 診断区分は複数の診断名がある場合、主たる１つの診断名が属する区分で計上した。
(4) 未決定は発達検査が未実施のため、診断区分が確定されていないものである。

表２－７　処遇方針作成状況　　（2019 年度、単位：件）

処遇方針	就学前児童							計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
経過観察	1				1	4	9	15
発達相談	10	41	142	121	52	42	6	414
ＰＴ訓練	4	14	2					20
ＯＴ訓練			1	7	9	8	1	26
ＳＴ訓練				11	10	13	1	35
摂食機能訓練	1	7	1	1				10
就園前グループ	9	28	113	27				177
並行グループ			1	14	13	7		35
通園施設方向			9	6				15
他機関紹介	2	1	2	1	2		1	9
計	27	91	271	188	87	74	18	756

注）(1) 年齢は初診時の満年齢である。
(2) 件数は 2019 年度新規相談者に対し、その年度内に処遇方針を作成した数である。
(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。
(4)「経過観察」は「発達相談必要時」と同義である。

2019 年度　南区・緑区・港区通園希望者

区	就学前児童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
南区		4	6	1			11
緑区		5	17	1			23
港区							0
計	0	9	23	2	0	0	34

注）年齢は 2019 年度の学年齢である。
進路先内訳　南部地域療育センターそよ風　24 人
発達センターあつた　7 人
待機児　3 人

表２－８　処遇方針追加変更状況　　（2019 年度、単位：件）

処遇方針	就学前児童						小学生	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	
発達相談		2	1			1		4
ＰＴ訓練	2	3		1	1		1	8
ＯＴ訓練			2	21	28	10	1	62
ＳＴ訓練				14	32	26		72
摂食機能訓練	2	3			1			6
就園前グループ	2	20	38	4				64
並行グループ			3	16	8	9		36
通園施設方向		2	15	1				18
他機関紹介			1					1
転居終了	1	4	5	1	1			12
計	7	34	65	58	70	46	2	283

注）(1) 年齢は学年齢である。
(2) 件数は当該年度に処遇方針を作成した数である。
(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

2　発達検査および発達相談

(1) 新規相談児童の発達検査

表２－９　初診の状況（発達相談）　　(2019 年度、単位：人)

区	就学前児童						計
	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
南　　区	11	37	32	18	20	4	122
緑　　区	15	74	103	37	26	12	267
港　　区			3				3
合　計	26	111	138	55	46	16	392

注）初診時の検査および初回受付診察後、合診後の初回相談を含む。
　　年齢は初診時の満年齢である。

(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談

・継続時のフォロー状況（延べ人数）は、前年度 1000 人、今年度は 1010 人

表２－10　継続相談児童のフォロー状況　　(2019 年度、単位：件)

区	就学前児童						小学生	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳		
南　　区	1	12	45	73	84	83		298
緑　　区	3	16	97	233	148	199	4	700
港　　区		1		2	4	5		12
合　計	4	29	142	308	236	287	4	1010

・来所回数　　(単位：人)

回数	人　数	割　合
1 回	544	70.4%
2 回	222	28.7%
3 回	6	0.8%
4 回	1	0.1%

実人数　773 人
注）年齢は学年齢である。

(3) 検査結果

表２－11　年齢別検査結果　（2019年度、単位：人）

検査数値	就学前児童						小学生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
20以下			2	6	4	4		16	2.1
21～35		4	1	7	4	6		22	2.8
36～50	1	3	10	10	13	15	1	53	6.9
51～75	2	8	43	52	23	28	1	157	20.3
76以上	1	10	55	145	142	171	1	525	67.9
計	4	25	111	220	186	224	3	773	100

注）年齢は学年齢である。

表２－12　障害別検査結果　（2019年度、単位：人）

障害種別	1度	2度	3度	4度	非該当	計
	20以下	21~35	36~50	51~75	76以上	
知的障害	3	8	21	35	5	72
自閉症	3	10	30	99	372	514
言語発達障害等				3	56	59
肢体不自由	1		2	6	5	14
重心	9	4				13
聴覚						0
視覚						0
その他（保健）					13	13
未決定				14	74	88
計	16	22	53	157	525	773

注）愛護手帳は非該当だが、知的障害の診断の子どもが５人いる。
いずれも直近の発達検査で DQ がわずかに 75 を上回ったケースであるが、診断名は知的障害のままである。

3　療育グループ

(1) 就園前グループ

・発達に不安のある就園前の子どもを対象に親子教室を実施した。そよ風にて、ぐんぐん教室 8 グループ、緑区の子どもセンターみどりにてぴょんぴょん教室 5 グループ、子どもセンターとくしげにてにこにこ教室 1 グループを実施した。次年度参加予定のプレグループは 2 グループの実施を予定していたが、新型コロナ感染予防のため実施できなかった。2019 年度は、14 グループ・167 組の親子が利用した。(9 グループは週 1 回、5 グループは月 2 回)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	合計	並行利用
2010 年度	9	65 (3)	112 (16)	2 (1)		188 (20)	2
2011 年度	11 (1)	75 (1)	111 (18)	3		200 (20)	0
2012 年度	14 (1)	86 (6)	131 (22)	6 (2)	1	238 (31)	4
2013 年度	13	108 (6)	130 (37)	3 (2)		254 (45)	3
2014 年度	13	90 (10)	152 (26)	3		258 (36)	8
2015 年度	15 (2)	88 (9)	134 (25)	7 (4)		244 (40)	19
2016 年度	11	84 (2)	127 (27)	5 (2)		227 (30)	17
2017 年度	8	71 (5)	118 (29)	6 (2)		203 (36)	19
2018 年度	6	69 (2)	124 (17)	5 (5)		203 (23)	17
2019 年度	5	49 (2)	108 (12)	5		167 (14)	14

注)(　) 内は途中終了児（再掲）

・グループ運営について

・2016 年度までは、初回の電話受付後、初診を待たずにグループを開始していた。2017 年度より、基本的に初回の電話受付後に、受付診療を行い、グループが必要になった場合に受け入れを行う形をとっている。2019 年度も、引き続き、同様の形をとった。4 月当初は電話受付からおおよそ 1 か月後にグループを開始できる形になっていたが、9 月頃には前年と同様に、待ち期間が長くなり、初回の予約電話が入ってから、2 カ月後のグループ開始になる形もあった。グループでは、参加して 1 か月後くらいを目安に、個人懇談を実施し、参加する中での目標や参加期間を保護者とスタッフとで確認した。
・保育園や幼稚園に通いながらグループを利用する親子が、2019 年度は 14 組在籍した。ぐんぐん教室 10 組、ぴょんぴょん教室 2 組、にこにこ教室で 2 組参加した。全体数に対して、保育園や幼稚園に通いながら利用する親子の割合は減っていない。(約 1 割)
・今年度は『兄弟保育ボランティア』は実施できなかった。
・療育内容は、1 歳児グループ、2 歳児グループ、ひよこうさぎグループに分けて計画を立て、それぞれに合わせたとりくみをおこなってきた。さまざまな子育て支援の事業や、親子分離で使える事業所が増える中、発達に不安があり、子育てに工夫や理解が必要な子どもたちの子育てを支える場としての役割を追求することが大きな課題となっている。これまでも大切にしてきているように、低年齢のうちに親子で一緒にあそぶなかで、子どものことがわかり、伝えられることを目標にしてきている。保護者自身も楽しみながら参加できるよう､声掛けをしたり、とりくみを工夫したりしてきた。

① 就園前グループ実施状況

（2019 年度、単位 : 人）

グループ名		実施状況	対 象 児 童	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	合計	職 員 体 制
ぐんぐん教室（そよ風 東館）	か ば	月曜日 (4月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2･3 歳児)			18 (4)	1	19 (4)	指導員 1 心 理 2 保育士 2（パート 1）
	らいおん	火曜日 (6月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2･3 歳児)			15 (3)	1	16 (3)	指導員 2 保育士 2（パート 2）
	ぞ う	火曜日・月 2 回 (11 月から開始･午後)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2 歳児)			12		12	指導員 3 保育士 1 心 理 1
	きりん	水曜日 (4月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2･3 歳児)			12 (1)	1	13 (1)	指導員 2（パート 1） 保育士 3（パート 2）
	く ま	木曜日・月 2 回 (5月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1 歳児)		9			9	指導員 2（パート 1） 保育士 1 心 理 1
	り す	木曜日・月 2 回 (11 月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1 歳児)		8			8	指導員 2（パート 1） 保育士 2（パート 1）
	ひよこ	金曜日 （4 月から開始・9 月までひよこうさぎ合同で実施）	早期に障害が発見され、知的障害、肢体不自由、重複障害を伴う子ども。	5	8			13	指導員 1（パート 1） 保育士 1 看護師 1 P T 1
	うさぎ		早期に障害が発見され、知的障害、肢体不自由、重複障害を伴う子ども。		8	4 (1)		12 (1)	指導員 1 C W 1 O T 1 (11 月まで) 保育士 1 (パート 1･11 月から) 心 理 1
ぴょんぴょん教室（子どもセンターみどり）	たんぽぽ	月曜日 (4月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2 歳児)			14 (2)		14 (2)	指導員 2 保育士 2（パート 2）
	ひまわり	火曜日・月 2 回 (5月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1 歳児)		9 (2)			9 (2)	指導員 2（パート 1） 保育士 2（パート 1）
	ば ら	火曜日・月 2 回 (11 月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1 歳児)		7			7	指導員 2（パート 1） 保育士 2（パート 1）
	ちゅうりっぷ	木曜日 (4月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2･3 歳児)			10	2	12	指導員 2 保育士 2（パート 2）
	こすもす	金曜日 (7月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2 歳児)			11		11	指導員 2 保育士 2（パート 2）
にこにこ教室（子どもセンターえじげ）	ぺんぎん	水曜日 (5月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2 歳児)			12 (1)		12 (1)	指導員 3（パート 1） 保育士 1（パート 1）
合 計				5	49 (2)	108 (12)	5	167 (14)	

注）(1) 年齢は学年齢である。
(2) （ ）内は途中終了児（再掲）

② **療育目標**

・子どもの要求を大切に、興味を広げ、意欲的に生活し、あそぶ力を育てる。
・親子あそびを通して、お母さんと一緒に楽しくあそぶ経験を積んでいく。
・食事・排泄・着替えなどの基本的生活習慣の自立を家庭と共に考えあう。
・生活基盤、生活リズムの確立を通し、健康な身体づくりをすすめる。
・姿勢、運動面への働きかけと、見る・聴く・触れるなど感覚への働きかけを大切にする。

③ **日　　課**

子どもの 24 時間の生活リズムを家族と共に考え、日課づくりを行った。

・ひよこ・うさぎグループは、登室時に検温、問診を行った。
・ひよこ・うさぎグループは 1 月から毎週汁物を提供し、ごはんなどの主食を持参してもらった。汁物については、グループスタッフで、個々に合わせた形態調節を行なった。
・かば、らいおん、きりん、たんぽぽ、ちゅうりっぷ、こすもす、ぺんぎんグループでは、1 月から、毎回ごはんと汁物を提供し、療育時間を 2 時間とした

ぐんぐん・ぴょんぴょん・にこにこ教室の日課

9:45	登室 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:15	はじまりのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび 排泄
10:30	とりくみ （子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮）
11:15	おやつ（食事提供）
11:30	紙芝居・絵本の読み聞かせ さようなら

ひよこ・うさぎグループの日課

9:45	登室 自由あそび・連絡ノート受け渡し 問診・健康チェック
10:15	はじまりのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび
10:30	とりくみ （子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮）
11:00	おやつ（食事提供）
11:30	さようなら

1 月から食事提供がはじまったグループについては、療育時間を 30 分延長し、12:00 までにした。

表２－16　就園前グループ障害種別状況　（2019年度、単位：人）

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
知的障害	2	7	5	1	15
肢体不自由			1		1
肢体不自由＋知的障害		1			1
自閉症	1	6	17	1	25
自閉症＋知的障害		6	18		24
言語発達障害		3	6	2	11
重心		3			3
保健	2	3			5
未決定		20	61	1	82
計	5	49	108	5	167

注）年齢は、学年齢である。

表２－17　就園前グループ区別状況　（2019年度、単位：人）

区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
南区	1	19	33	1	54
緑区	4	30	75	4	113
計	5	49	108	5	167

表２－18　就園前グループ月別在籍人数　（2019年度、単位：人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数	25	48	68	82	94	99	117	127	141	147	153	
月末の数	48	68	82	94	99	117	127	141	147	153	30	
新入児の数	23	20	15	12	7	19	14	17	7	8	0	
終了児数	0	0	1	0	2	1	4	3	1	2	123	

④　年間行事

4月		10月	家族遠足
5月	こいのぼり製作	11月	バザー
6月	就園学習会	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	お正月の遊び
8月	親子プール・夏まつり	2月	節分
9月	親子プール	3月	

・家族参観（父親・祖父母対象）は、各グループの状況に合わせて実施。
・親子プールは、ぐんぐん教室のみ実施。
・3月は、おわりのつどいを各グループで予定していたが、新型コロナウィルス感染症予防の為中止となった。

⑤　グループ健康会議

ひよこ・うさぎグループを中心に、子どもの健康状況のとらえを共有することを目的に、小児科医師・保健師・看護師・保育士・指導員により、年2回、健康会議を実施した。また、会議の中で、健康や障害についての学習会を行った。

表2－19　就園前グループ月別参加人数（延べ数）　（2019年度、単位：人）

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ぐんぐん教室	かば	17	28	33	35	26	37	27	25	38	21	28		315
	らいおん			3	19	16	32	37	40	33	29	25		234
	ぞう								9	12	17	9		47
	きりん	22	37	36	31	15	43	39	39	28	25	32		347
	くま			5	5	7	11	21	13	17	15	13		107
	りす							5	12	7	14	12		50
	ひよこうさぎ	23	36	39	35	31	39	17						219
	ひよこ							14	33	18	22	20		107
	うさぎ							15	29	20	26	15		105
ぴょんぴょん教室	たんぽぽ	22	26	37	48	27	25	27	29	41	29	26		337
	ひまわり		3	7	11	9	8	7	10	10	13	8		86
	ばら								1	8	6	7		22
	ちゅうりっぷ	22	32	28	23	19	23	29	34	23	30	37		300
	こすもす				7	13	28	35	42	25	32	31		213
にこにこ教室	ぺんぎん		9	22	32	16	39	43	38	31	39	39		308
計		106	171	210	246	179	285	316	354	311	318	302		2797

注）2月下旬から3月は新型コロナウイルス感染防止のため休止。

表２－20　就園前グループ進路先状況　　（2019 年度、単位 : 人）

進　路　先	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
通　園　施　設		6	12	2	20
公　立　保　育　園			10【7】		10【7】
民　間　保　育　園	1	3	6【1】		10【1】
公　立　幼　稚　園					0
民　間　幼　稚　園		3	53		56
認　定　こ　ど　も　園		4	14		18
グ　ル　ー　プ　継　続	4	26	2		32
み　ど　り　そ　よ　風					0
デイサービス ACT		4			4
児童発達支援事業所				1	1
転　　居			1	1	2
途　中　終　了		2	7		9
終　　了		1	1		2
そ　の　他			2	1	3
計	5	49	108【8】	5	167

注）(1) 年齢は、2019 年度の学年齢である。
　　(2)【　】内は障害児保育の数（再掲）

(2) 就園前グループアフターのつどい

・2018 年度就園前グループを終了した保護者を対象に、交流会を実施、延べ 58 名が参加した。グループ終了後の親子の状況をとらえ、子育てや園生活のアドバイスを行った。
・ぐんぐん教室、ぴょんぴょん教室、にこにこ教室、全て 9:30~11:00。

表２－21　アフターのつどい参加状況

グ　ル　ー　プ　名		日　時	場　　所	参加人数
ぐ　ん　ぐ　ん　教　室	か　　ば	2019. 5.28	そ　　よ　　風	7 名
	ら　い　お　ん	2019. 6.25	そ　　よ　　風	12 名
	き　　り　　ん	2016. 6.27	そ　　よ　　風	5 名
	ぞ　　う	2019. 5.23	そ　　よ　　風	3 名
ぴょんぴょん教室	た　ん　ぽ　ぽ	2019. 6.21	子どもセンターみどり	10 名
	ちゅうりっぷ	2019. 6.14	子どもセンターみどり	5 名
	こ　す　も　す	2019. 6. 7	子どもセンターみどり	4 名
に　こ　に　こ　教　室	ぺ　ん　ぎ　ん	2019. 6.11	子どもセンターとくしげ	12 名

(3) その他の就園前グループ

① 子育て教室

・早期受診児や健康面、家族の状況でグループ参加できない児に対し子育て教室を開催している。

・対象児前期 15 名、後期 11 名、対象ではあったが一度も参加しなかった児 4 名あり。理由としては、体調面・母の就労・親が集団が苦手、などである。また、保育園に途中入園した児もいた。

・療育グループへの移行は、後半期に 4 名であった。

・3 月は、コロナウイルス感染症の為、集団療育が自粛となり、実施できなかった。

・年々、母の就労（職場復帰）が増えていて、保育園探しも課題となってきている。

表 2 － 22　子育て教室参加状況　（2019 年度、単位 : 件）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
組（親子）	3	3	5	6	7	9	7	3	6	7	7	－	63

表 2 － 23　子育て教室参加児年齢（開始時）　（2019 年度、単位 : 人）

月	0~6 ヶ月	7~12 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	計
組（親子）	1	6	11			18

表 2 － 24　児童の状況　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	ダウン症	知的障害	運動発達遅滞	後天性要因による運動障害	その他の先天性障害	そ の 他	計
実人数	7	1	2	2	5	1	18

表 2 － 25　区別状況　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	0~6 ヶ月	7~12 ヶ月	1　歳	2　歳	計
南　　区		2	4		6
緑　　区	1	4	7		12
合　計	1	6	11		18

（4）並行グループ

・並行グループ（さんさん教室）は２週に１度のグループをそよ風東館にて、７グループ実施した。子どもセンターとくしげでは月１回土曜日に、さんさん教室を通年で実施した。合計８グループを実施した。
・グループ編成は基本的には年齢、障害、発達状況、家庭状況を考慮した。
・３歳児の子どもたちは体力面を考慮し、例年後半期（10 月 ~）から実施の実施としてきた。しかし、低年齢からの入園が増えたことに伴い、ニーズが出てきたことと、早期に入園しているので､子どもたちも集団参加の経験があることを踏まえ､今年度は４月からの前半グループも実施した。
・保護者の希望、園の先生の紹介とつながってくるケースもあり、親子の支援はもちろん、園との連携や支援も課題となっている。

①　並行グループの実施状況

活動時間は、そよ風では 14:30~16:00、子どもセンターとくしげでは 10:00~11:30。

（2019 年度）

実施状況		対象児の障害	3歳	4歳	5歳	計	療育目標	職員体制
そよ風	ばす 第１・３・５火曜 （4~9 月）	ADHD MR ASD	6			6	・取り組みを通して達成感を味わい、自信につなげていく。 ・体や手先の使い方を知っていく。 ・友だちとあそぶ楽しさを知る。	保育士　1 心　理　1 指導員　3
	へりこぷたー 第２・４火曜日 （4~9 月）	ASD　DCD MR　ADHD		2	6	8		保育士　1 指導員　3
	しんかんせん 第１・３・５木曜 （4~9 月）	ASD　DCD ADHD　境界域 構音障害		3	4	7		保育士　1 指導員　3 心　理　1
	ひこうき 第２・４木曜 （4~9 月）	ASD　DCD ADHD　境界域		4		4		保育士　1 指導員　3 心　理　1
	よっと 第２・４火曜 （10~2 月）	ASD　境界域 ADHD　DCD	7			7		保育士　1 指導員　3
	ろけっと 第１・３・５木曜 （10~2 月）	ASD　ADHD DCD　MR		6	2	8		保育士　1 指導員　3 心　理　1
	ばす（後半） 第２・４木曜 （10~2 月）	ASD　ADHD DCD　MR	6			6		保育士　1 指導員　3 心　理　1
子どもセンターとくしげ	きしゃ 月１回土曜 （4 月 ~1 月）	ASP ASD DCD		2	6	8		保育士　1 指導員　2 心　理　1
合　計			19	17	18	54		

注）年齢は学年齢である。（　）内は途中終了児（再掲）。

② 日　課

各グループの状況、とりくみ内容によって日課を変えている。

子どもセンターとくしげのさんさん教室の時間は（　）内。

さんさん教室の日課

14:30	登室
(10:00)	自由遊び(描画、パズルなど)
	連絡ノート受け渡し
15:00	こんにちはのつどい
(10:30)	スケジュール確認　呼名
	とりくみ①
	おやつ
	とりくみ②
	おわりのつどい
	シール貼り
16:00	さようなら
(11:30)	

表２－26　並行グループ障害種別状況　（2019 年度、単位 : 人）

障害種別	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
知的障害				0
自閉症＋知的障害	2	3	1	6
自閉症	17	13	17	47
言語発達障害等		1		1
計	19	17	18	54

注）年齢は、学年齢である。

表２－27　並行グループ区別状況　（2019 年度、単位 : 人）

区	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南区	3	3	3	9
緑区	16	14	15	45
計	19	17	18	54

注）年齢は、学年齢である。

表２－28　並行グループ在籍児の所属園　　（2019年度、単位：人）

区　分	3歳児	4歳児	5歳児	計
公立保育園	6	2	2	10
民間保育園	7	6	3	16
公立幼稚園	1	2	3	6
民間幼稚園		3	5	8
認定子ども園	4	3	5	12
その他	1	1		2
計	19	17	18	54

表２－29　並行グループ月別在籍児数（延べ数）　　（2019年度、単位：人）

区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数	0	19	30	31	30	30	8	28	29	29	21	
月末の数	19	30	31	30	30	8	28	29	29	21	0	
新入児の数	19	11	2	0	0	1	20	1	0	0	0	
終了児数	0	0	1	1	0	23	0	0	0	8	21	

表２－30　並行グループ月別参加人数（延べ数）　　（2019年度、単位：人）

グループ名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
そよ風	ばす		11	12	14	7	5							49
	へりこぷたー	8	15	12	13	6	13							67
	しんかんせん	7	10	9	11	9	5							51
	ひこうき	4	8	7	7	4	7							37
	よっと							13	13	12	12	12		62
	ろけっと							15	11	12	13	14		65
	ばす（後半）							8	12	6	10	8		44
子どもセンターとくしげ	きしゃ		5	6	3		6	5	5	3	4			37
計		19	49	46	48	26	36	41	41	33	39	34		412

注）２月下旬から３月は新型コロナウィルス感染予防のため休止。

表２－31　並行グループ終了状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区　分		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計
小学校	通　常　学　級			7	7
	特別支援学級･学校				0
グ ル ー プ 継 続		5	1		6
終　　了		14	16	10	40
そ　の　他				1	1
計		19	17	18	54

③　グループ見学会

・各グループで見学会を行い、保育園が 18 ヶ園 25 名、幼稚園が 15 ヶ園 20 名、認定こども園が２ヶ園３名、その他の園１ヶ園４名の参加があった。

・グループのとりくみ終了後、保護者と、参加した園の先生、グループスタッフで懇談する時間を設けた。

表２－32　グループ見学会参加状況　14:30~16:30　とくしげは 10:00~12:00

グ ル ー プ 名			日　　時	参 加 人 数
そよ風	ば　　す	前半期 (4 月 ~9 月)	2019. 7. 2 2019. 7.16	１ヶ園１名 ２ヶ園３名
	へりこぷたー		2019. 6.11	２ヶ園３名
	しんかんせん		2019. 6. 6 2019. 6.20 2019. 7. 4	２ヶ園２名 １ヶ園１名 １ヶ園２名
	ひ こ う き		2019. 6.13 2019. 6.27 2019. 7.11	１ヶ園１名 ２ヶ園２名 １ヶ園１名
	よ　っ　と	後半期 (10 月 ~2 月)	2019.11.19 2019.12. 3 2019.12.17	２ヶ園３名 １ヶ園２名 ３ヶ園４名
	ろ け っ と		2019.11.21 2019.12. 5 2019.12.19 2020. 2. 6	１ヶ園１名 ２ヶ園３名 １ヶ園２名 １ヶ園１名
	ば　　す		2019.11.28 2019.12.12 2020. 1. 9	１ヶ園１名 １ヶ園１名 ２ヶ園４名
子どもセンターとくしげ	き　し　ゃ	通年 (4 月 ~1 月)	2019.11. 2	１ヶ園２名

注）複数回来所の園あり　表内は延べ園数

4　保護者向け学習会

（1）年長児保護者向け学習会

表２－33　就学前の保護者を対象に学習会を実施した

月　日	テーマ	講　　師	参加人数	対　象
2019. 5. 23	就学講演会	教育センター 篠田先生	参加 90 人	年長児保護者

第３　医療事業

１　診　　療

医師体制は変わらない。小児科（常勤１名、非常勤週２回)、整形外科（非常勤週２回)、耳鼻咽喉科（非常勤週１回)、精神科（非常勤月１回）による診療を行っている。また看護師は常勤３名（内１名は通園部に勤務)、非常勤１名である。保健師は常勤１名で、主としてケースワーカー業務を行っている。

診療の中で発達相談事業の初診は、原則週３日であるが、近年では患者が増え、若干臨時に行っている。

検査としては、脳波検査、聴性脳幹反応検査は週２回、自覚的聴力検査週１回、他覚的聴力検査（チンパノメトリー、DPOAE）週１回、レントゲン検査は月２回（不定期にもあり）実施している。

（1）小児科

①　新規患者について

・ケースワーカーによる問診（合診は看護師かケースワーカー)、発達相談員による発達検査を経て、小児科医師による診療となる。小児科医師はそれまでのデーターと診察を総合して診断し、必要な検査や訓練などの指示を出し、発達指導を行う。親への告知は原則的に正確に行うが、状況に応じて、育て方に重点をおいて指導し、中断の予防につとめている。本人への告知は、知能におくれがない場合は9、10歳以後が望ましい。医師の診療後にケースワーカーまたは保健師が後診（患者の保護者の感想の聴取）を行っているが、感想はいろいろである。予想通りという人、感謝する人、ショックを隠せない人などさまざまである。患者の年齢、重症度、告知既往の有無、そして当然のことながら医師の指導の仕方によっても感想は変わる。

・新規患者数（表２－１）は昨年にくらべやや増えた（424 → 432人)。

・診断区分（表２－６）の割合について、「未決定」とするのは、１・２歳児受付初診の子どもたちである。未決定を除いた自閉症の％は前年とほぼ不変（63.0 → 63.4%)。

②　小児科発達外来（表３－１）

・延べ人数は不変、実人数は微減（延べ563 → 563、実482 → 474)。常勤１、非常勤２名の医師がみている。

③　小児科定期診察（表３－４）

・延べは増加、実人数は不変である（延べ139 → 162、実27 → 27)。その年の重症度と関係するのであろう。

・通園部以外（表３－５）

ひよこグループは一人平均一回で変わらず、あいあい組は平均1.9 → 1.6回と微減。その年の障害の重症度と関係するのであろう。

④　小児科一般外来（表３－２）

・延べは微増、実人数は減少した（延べ105 → 110、実74 → 59)。投薬については長期投薬の一部を児童精神科で対応している。ワクチンは主治医にお願いしている。

・長期投薬数（表３－３）

就学後の患者は他医に紹介しているので増加は少ない。

⑤　早期療育会議

月 2 回開催。担当（CW, 看護師、PT, グループ職員）

合診を経過した児の状況を把握し、支援の方針を検討する。とりあえず子育て教室に通ってもらい、グループへの参加、訪問指導、制度利用の相談につなげる。

⑥　通園部の健康管理

・とくに例年と変わりはない。健康学習会（親向けで季節の病気、発達や障害などの学習）、毎日の健康チェック、重症児の医療的ケア、健康診断（年 2 回）、定期診察、一般疾患診療、伝染病の予防や啓発、他科（眼科、整形外科、耳鼻科など）受診のすすめなど。

⑦　健康会議

診療部と通園部などとの会議である。子どもの健康のとらえを報告しあい、諸行事（宿泊療育など）のときの注意点、単独保育への移行やバス乗車の問題点などについて話しあい、意志統一している。拡大会議では症候群などの学習をしている。

なお、発達センターあつたとの健康会議も行っている。

⑧　看護職の業務

・共通業務

（a）診療介助や健康診断介助、健康診断事後措置に関わる業務など。

・分担業務

（b）通園部での健康管理：健康観察と医療的ケア或いはその指導援助。

重度の子がふえている。2019 年度医療的ケアを必要とする子どもは 7 名いた。通園部付きの看護師が一人いるが、そのほかに診療部の看護師も毎日医療支援に、1 日保育支援に入っている。それでも体制的に厳しく、母親に週 1 回援助に入ってもらっている。

（c）訪問療育指導：重症心身障害児が多い。長期入院の児を月 1 回訪問している。

（d）グループ療育：医療的ケアが必要な児が在籍するグループに入る。発達と障害の基礎知識も必要。リーフレットを作成し、健康教育も行っている。

超低年齢児はグループに入る前段階として「子育て教室」（表 2 － 22~25）に入ることを推奨している。保育士と看護師が担当している。

（e）小児科と整形外科の合診の際、問診と障害、発達観察をおこなっている。

⑨　その他

・予防接種

全体として主治医あるいは近医での接種が多い。

・最近の特徴

通園部の子どもはほとんど発語がない。サインや PECS を積極的にすすめている。

自閉症などで発語がある場合でも対話能力、説明能力が落ちる場合が多い。その訓錬を増やしている。センターだけでは、供給が間に合わないので、他機関を紹介している。ネットワーク構築につながればよい。

本来対象の子どもは 18 歳までであるが、人員、施設、予算などの関係から心ならずも就学前で打ち切り、開業医（児童精神科、小児精神科）などに紹介している。

幼児期の療育をより良いものにするためにも、就学後の子どもや大人によりよく対応するためにも、児童期、思春期、青年期、成人期の学習を強化する必要があろう。

表３－１　小児科発達外来再診　　（2019 年度、単位 : 件）

診断区分		就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群	11 (5)	9 (7)	3 (3)		2 (2)	3 (3)					28 (20)	5.0 (4.2)
	その他の症候群		1 (1)		1 (1)	1 (1)	2 (2)					5 (5)	0.9 (1.1)
	てんかん			2 (1)	1 (1)							3 (2)	0.5 (0.4)
	知的障害	6 (4)	9 (8)	10 (10)	11 (10)	4 (2)	4 (3)					44 (37)	7.8 (7.8)
その他神経疾患		1 (1)										1 (1)	0.2 (0.2)
脳性麻痺＋知的障害		2 (1)		1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)					7 (6)	1.2 (1.3)
知的障害＋脳性麻痺				1 (1)	1 (1)							2 (2)	0.4 (0.4)
脳性麻痺						1 (1)	1 (1)	1 (1)				3 (3)	0.5 (0.6)
整形外科疾患			3 (2)									3 (2)	0.5 (0.4)
急性脳症後遺症		2 (1)	1 (1)	1 (1)			2 (1)					6 (4)	1.1 (0.8)
運動発達遅滞		3 (3)		1 (1)								4 (4)	0.7 (0.8)
中枢性協調障害			2 (2)			1 (1)		1 (1)				4 (4)	0.7 (0.8)
自閉症		4 (2)	21 (15)	85 (70)	82 (65)	43 (39)	152 (135)	8 (7)				395 (333)	70.2 (70.3)
ＡＤＨＤ				2 (2)		3 (3)	1 (1)					6 (6)	1.1 (1.3)
言語発達遅滞			5 (4)	4 (4)	8 (7)		3 (3)					20 (18)	3.6 (3.8)
構音障害												0 (0)	0.0 (0.0)
吃音							1 (1)					1 (1)	0.2 (0.2)
正常域												0 (0)	0.0 (0.0)
境界域			2 (1)	2 (2)	6 (4)	4 (3)	4 (4)					18 (14)	3.2 (3.0)
筋ジストロフィー							2 (2)					2 (2)	0.4 (0.4)
その他			2 (2)	2 (1)	2 (2)	4 (4)	1 (1)					11 (10)	2.0 (2.1)
合計		29 (17)	55 (43)	114 (97)	113 (92)	65 (58)	177 (158)	10 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	563 (474)	100 (100)

注）(1)（　）は実人数である。
　　(2) 年齢は、学年齢である。

表３－２　小児科一般外来　　（2019 年度、単位 : 件）

診断区分		就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群		1 (1)	2 (1)	3 (1)	1 (1)						7 (4)	6.4 (6.8)
	その他の症候群				1 (1)	1 (1)	3 (2)					5 (4)	4.5 (6.8)
	てんかん				4 (1)							4 (2)	3.6 (3.4)
	知的障害	1 (1)	4 (4)	3 (3)	6 (3)	1 (1)						15 (12)	13.6 (20.3)
	水頭症					1 (1)						1 (1)	0.9 (1.7)
脳性麻痺＋知的障害					1 (1)	1 (1)				1 (1)		3 (3)	2.7 (5.1)
知的障害＋脳性麻痺					1 (1)		5 (2)		1 (1)		2 (1)	9 (5)	8.2 (8.5)
脳性麻痺							6 (1)	2 (1)				8 (2)	7.3 (3.4)
脳炎後遺症												0 (0)	0.0 (0.0)
急性脳症後遺症												0 (0)	0.0 (0.0)
整形外科疾患												0 (0)	0.0 (0.0)
自閉症			1 (1)	7 (2)	10 (7)	18 (3)	9 (6)	1 (1)	7 (1)	1 (1)		54 (22)	49.1 (37.3)
運動発達遅滞		1 (1)										1 (1)	0.9 (1.7)
多動症								1 (1)				1 (1)	0.9 (1.7)
言語発達遅滞			1 (1)									1 (1)	0.9 (1.7)
正常												0 (0)	0.0 (0.0)
その他										1 (1)		1 (1)	0.9 (1.7)
合計		2 (2)	7 (7)	12 (6)	26 (16)	23 (8)	23 (11)	4 (3)	8 (2)	3 (3)	2 (1)	110 (59)	100 (100)

注）(1)（　）は実人数である。
　　(2) 年齢は、学年齢である。

表３－３　長期投薬　　（2019 年度、単位 : 人）

診断名＼学齢区分	0~2 歳	3~5 歳	小学1~3年	小学4~6年	中学生	その他	計
ＭＲ・自閉症	1	2		1			4
ＡＳＤ		2					2
合計	1	4	0	1	0	0	6

注）(1) 管理数の内訳は、継続４名、新規２名。次年度への継続児は３名。終了のうち２名は他院へ転院、１名は当診精神科へ移行した。
　　(2) 主訴は不眠、多動などである。

表３－４　小児科定期診察（通園児）　　（2019 年度、単位 : 人）

診断区分		就学前児童						計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
知的障害	ダウン症候群			11 (1)	9 (1)	2 (2)		22 (4)	13.6 (14.8)
	その他の症候群				4 (1)	8 (1)	11 (1)	23 (3)	14.2 (11.1)
	てんかん				3 (2)			3 (2)	1.9 (7.4)
	知的障害				31 (3)	2 (1)		33 (4)	20.4 (14.8)
脳性麻痺＋知的障害					10 (2)	10 (2)		20 (4)	12.3 (14.8)
知的障害＋脳性麻痺					12 (2)		26 (2)	38 (4)	23.5 (14.8)
自閉症					3 (3)		13 (2)	16 (5)	9.9 (18.5)
水頭症						7 (1)		7 (1)	4.3 (3.7)
筋ジストロフィー								0 (0)	0.0 (0.0)
脳炎後遺症								0 (0)	0.0 (0.0)
整形外科疾患								0 (0)	0.0 (0.0)
合計		0 (0)	0 (0)	11 (1)	72 (14)	29 (7)	50 (5)	162 (27)	100 (100)

注）(1)（ ）は実人数である。
(2) 年齢は、学年齢である。
＊障害種別では「重心」となる児が 10 名あり。昨年（7 名）の約 1.4 倍で、診察の回数も増えている。
＊診断区分では自閉症や知的障害となっているが、てんかんや嚥下障害などの疾患を重複している者も含まれる。

表３－５　小児科定期診察（療育グループ等）　　（2019 年度、単位 : 人）

グループ名	就学前児童						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
ひよこ･うさぎG	1 (1)	11 (11)	2 (2)				14 (14)
あいあい組			11 (7)				11 (7)

注）(1)（ ）は実人数である。
(2) 年齢は学年齢である。
＊登録数は、ひよこ 14 人・うさぎ 11 人で計 25 人、あいあいは 7 人だった。
＊ひよこ・うさぎ G、あいあい組共に医療的ケア児が少なく、定期診察の必要児の人数・回数共に減少。

(2) 整形外科

・新規受診者数 45 名で、新型コロナウイルス感染症の関係で減少。
・装具外来受診者数のべ 296 名、定期診察受診者数のべ 268 名、外来の実人数は 202 名であった。
・3 歳以下の子ども達の定期診察が増えている。PT との連携があったからと思われる。
・通園児の受診数は、55 名中 36 名であった。
・2019 年度、終了数 8 名（高校卒業児、死亡児 1 名を含む）、PT オーダー 24 名（合診から 18 名・経過フォロー児から 6 名）、OT 再オーダー 1 名であった。
・例年より靴、椅子、バギーの貸し出しが多くあった。身障手帳取得前に装具の必要な児が多かったり、まだ低年齢の為、まずは貸し出しで使ってみてからの判断とした為である。

表 3 － 6　整形外科診断区分別状況（新規）　（2019 年度、単位 : 人）

区分		就学前児童							小学生		中学生	他	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年				
知的障害	知的障害												0	0.0
	ダウン症候群	3	2	1	1								7	15.6
	脳性麻痺	1		1									2	4.4
中枢性協調障害													0	0.0
運動発達遅滞		4	14										18	40.0
神経・筋疾患								1					1	2.2
骨・関節疾患				3	1								4	8.9
後天性要因による運動障害		1	1										2	4.4
二分脊椎													0	0.0
その他の先天性障害		1	4										5	11.1
その他		1	1	2	1	1							6	13.3
合計		11	22	7	3	1	0	1	0	0	0	0	45	100

注）(1) 年齢は初診時の満年齢である。
(2) 整形外科を初めて受診した人数（実人数）である。
(3) その他の先天性障害には、染色体異常・症候群を含む。
(4) その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。
(5) 運動発達遅滞には、WEST 等のてんかん発作の児も含む。

表３－７　整形外科診断区分別状況（装具外来）　（2019 年度、単位 : 件）

区分		就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	知的障害		4	2			3	1		1		11	3.7
	ダウン症候群		2	5	8	3	6	13	10	1		48	16.2
	脳性麻痺			3	15	14	19	31	20	19	17	138	46.6
中枢性協調障害												0	0.0
運動発達遅滞			3		15				6			24	8.1
神経・筋疾患									1	4		5	1.7
骨・関節疾患			1	2								3	1.0
後天性要因による運動障害			4									4	1.4
二分脊椎												0	0.0
その他の先天性障害			3	4	4	3	9	9		3	2	37	12.5
その他			5	2	7	5	2	2	3			26	8.8
合計		0	22	18	49	25	39	56	40	28	19	296	100

注）(1) 年齢は学年齢である。
(2) 装具外来の延べ受診件数を示した。
(3) その他の先天性障害には、染色体異常・症候群等を含む。
(4) その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。
(5) 運動発達遅滞には、WEST 等のてんかん発作の児も含む。

表３－８　整形外科診断区分別状況（定期診察）　（2019 年度、単位 : 件）

区分		就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	知的障害	4	8	4	2		4					22	8.2
	ダウン症候群	10	7	4	7	2	3	12	11	1		57	21.3
	脳性麻痺			8	14	4	8	18	7	10	5	74	27.6
中枢性協調障害												0	0.0
運動発達遅滞		12	15	6	6				1			40	14.9
神経・筋疾患									1	1		2	0.7
骨・関節疾患			3	1	2		2					8	3.0
後天性要因による運動障害		3	3	1								7	2.6
二分脊椎												0	0.0
その他の先天性障害		6	13	7	4				1		2	33	12.3
その他			5	6	6	5	2		1			25	9.3
合計		35	54	37	41	11	19	30	22	12	7	268	100

注）(1) 年齢は学年齢である。
(2) 定期診療の延べ受診件数を示した。
(3) その他の先天性障害には、染色体異常・症候群等を含む。
(4) その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。
(5) 運動発達遅滞には、WEST 等のてんかん発作の児も含む。

(3) 耳鼻咽喉科

・当センターの耳鼻咽喉科診療目的は、聴覚の管理や疾患の早期発見、早期治療である。
・今年度当科を受診した患児の総数は 248 名、のべ人数 456 名であった。終了数 121 名、そのうち新患での終了児 73 名。
・通園児フォロー 55 名中 17 名。
・聴検を実施したが、良好な検査結果が得られず、且つ、ティンパノ、DPOAE 共に実施できなかった児に対して、ABR または、3 歳児健診前の再検を行うようにしている。
・他院への紹介は 1 件、他院からの紹介は 2 件であった。
・本年は、難聴を伴う重複障害を持つ重症心身障害児のケースについて、重心学会でポスター発表を行った。
・外国籍の両親（及びいずれか）を持つ児は、9 件あった。

表 3 － 9　診断区分別状況（新規）　（2019 年度、単位 : 件）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
難聴の疑い			2			2	1				5	2.6
難聴				1							1	0.5
滲出性中耳炎			2	1	1						4	2.1
耳垢塞栓		4	23	16	3	2					48	24.7
言語発達遅滞		3	69	33	5	1					111	57.2
粘膜下口蓋裂											0	0.0
構音障害			1	5	6	5	1				18	9.3
正常				1	1						2	1.0
その他・その他の耳鼻科疾患			3	1		1					5	2.6
計	0	7	100	58	16	11	2	0	0	0	194	100
実人数	0	5	72	44	14	8	2	0	0	0	145	

注）(1) 年齢は学年齢である。
　　(2) 区分は複数カウントである。

表３－10　診断区分別状況（継続）　　（2019 年度、単位 : 件）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
難聴の疑い				1	1	1	1	1		1	6	2.3
難聴				2		1	1			2	6	2.3
滲出性中耳炎			2		1	5	2			1	11	4.2
耳垢塞栓		9	22	15	5	10	8	6	5	5	85	32.4
言語発達遅滞		22	33	10	5	3					73	27.9
粘膜下口蓋裂											0	0.0
構音障害				4	2						6	2.3
鼻咽喉疾患			5	1	3	5	5	11	1	20	51	19.5
その他･その他の耳鼻科疾患		3		6	4	6	2			3	24	9.2
計	0	34	62	39	21	31	19	18	6	32	262	100
実人数	0	13	33	16	9	10	8	6	3	5	103	

注）(1) 年齢は学年齢である。
　　(2) 診断区分は複数カウントである。
＊その他・その他の耳鼻科疾患は、吃音、外耳道炎、急性中耳炎などである。

表３－11　聴力検査　　（2019 年度、単位 : 件）

区分		就学前児童							小学生		中学生	高校生	計
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年			
自覚的聴力検査	BOA			3	3								6
	COR		4	78	37	6	3	1	2			2	133
	Peep-Show			5	21	15	8	6	2	2			59
	標準純音聴力検査						1	1	1			1	4
	プレイオージオ				1								1
合計		0	4	86	62	21	12	8	5	2	0	3	203

注）年齢は満年齢である。

区分		就学前児童							小学生		中学生	高校生	計
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年			
他覚的聴力検査	ﾃｨﾝﾊﾟﾉﾒﾄﾘｰ		2	63	49	17	11	3	3	2		2	152
	DPOAE		2	33	31	17	11	2	1	1		1	99

注）年齢は満年齢である。

検査名	就学前児童						小学生		計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年	
ABR	0	2	11	8	2	1	0	0	24

注）年齢は学年齢である。

（4）精神科

・2019 年度は、医師の交代があった。
・新規受診児は年長 2 名（投薬の相談）、前年度からの継続 4 名は就学児（投薬継続、母親カウンセリング）。
・のべ件数も 57 件と減少しているが、管理数の減少に伴うもので、1 人当たりの受診回数は 7.2 回→ 9.5 回と多くなっている。
・自閉症の、不適応症状に対する診療（精神療法、投薬）が中心であり、ADHD 併発の児が多い。
・終了 1 名は就学に伴い他クリニックへ紹介した。
・次年度への継続は 5 名。

表 3 － 12　精神科診断区分状況（新規）　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	就学前児童						小学生		中学生	他	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年			
自閉症（平均知能）											0
自閉症（精神遅滞）						2					2
ＡＤＨＤ											0
精神遅滞											0
その他											0
合　計	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2

注）年齢は学年齢である。

表 3 － 13　前年度からの継続児　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	就学前児童						小学生		中学生	他	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年			
自閉症（平均知能）											0
自閉症（精神遅滞）							3		1		4
ＡＤＨＤ											0
精神遅滞											0
その他											0
合　計	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	4

注）年齢は学年齢である。

表 3 － 14　精神科診断区分状況　（2019 年度、単位 : 件）

区　分	就学前児童						小学生		中学生	他	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年			
自閉症（平均知能）											0
自閉症（精神遅滞）						16	34		7		57
ＡＤＨＤ											0
精神遅滞											0
その他											0
合　計	0	0	0	0	0	16	34	0	7	0	57

注）（1）年齢は学年齢である。
　　（2）精神科の延べ受診件数を示した。

(5) 検査

表３－15　脳波、ABR　　(2019 度、単位 : 件)

検査名	就学前児童						小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年		
ABR	0	2	11	8	2	1	0	0	0	24
脳波	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2

注）年齢は学年齢である。

表３－16　エックス線写真部位　　(2019 年度、単位 : 件)

部位	就学前児童							小学生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
足部					1			1		2		4
脊柱				1	2	1	2	5	7	3	2	23
股関節			10	7	4	1	2	6	3	3	2	38
下肢												0
膝			2			1						3
手根骨												0
肘				1								1
頸椎			1			1		1	2			5
アデノイド												0
その他				1								1
計	0	0	13	10	7	4	4	13	12	8	4	75

注）年齢は満年齢である。

実人数

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年	中学生	他	計
人数	0	0	11	7	6	3	2	8	9	3	2	51

(6) 診断書等発行

表３－17　診断書等発行状況　　(2019 年度、単位 : 件)

診断書等	小児科	整形外科	耳鼻科	精神科
特別児童扶養手当診断書	42	4		
障害児福祉手当診断書	2	3		
身体障害者手帳診断書		10		
精神保健福祉手帳診断書				
補装具意見書		56		
補装具交付証明書		41		
障害証明書				
初診日に関する証明書	7			
私立幼稚園特別支援教育費も係わる診断書	36			
その他診断書	48			
紹介状・回答書	271	7	3	1
おむつ意見書		7		
児童発達支援等の利用に係わる意見書	123			
計	529	128	3	1

2 訓　　練

当センターでは、訓練部門として、個別訓練、生活支援事業（摂食・嚥下機能訓練、通園・療育グループでの摂食指導・療育参加・学校連携)、保護者向け学習会、巡回療育指導、関連診療科との協力等の業務を行った。

(1) 理学療法（PT)

・個別訓練は医師の指導監督の下、理学療法士５名（常勤２名・非常勤３名）が、施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。非常勤職員の勤務は２名は 0.5 日 / 週、１名は前期３日 / 週、後期 2.5 日 / 週であった。
・訓練内容は、児童の全身状態や障害状況、運動状況に合わせ、ボイタ法を含めた運動療法や呼吸理学療法を行っている。
・児童の家庭や保育園での生活を把握しながら、生活面における指導・援助を行い、訓練・治療内容が児童・家族の日常生活の改善や向上につながるように努めている。
・訪問看護や訪問リハビリを受けている児童について、関連機関からの見学があり、当センターでのリハビリ状況や訪問看護・訪問リハの状況の情報共有を行った。
・座位が不安定な児童に対し、椅子・姿勢保持具等の作製を行った。
・2019 年度の新規児童は、31 名であった。診断名別に見るとその他の運動障害が全体の 29.0% で最も多かった（表３－ 19)。
・新規児童の中には、理学療法に継続して来所するための基盤を安定させるために、家族支援を要するケースが 12 件あった。
・2019 年度末の時点で医療ケアを必要とする児童は気管切開６名、酸素吸入１名、エアウェイ１名、胃ろう・腸ろう 11 名、経管栄養４名であった。
・他機関（病院､クリニック､訪問）でのリハビリテーションを併用している児童は､16 名であった。
・保育園・幼稚園に通う 15 名中３名、児童発達支援事業所に通う６名中２名は療育グループに並行して通っていた（表３－ 22)。
・巡回療育指導を看護師とともに行った。

表３－ 18　PT 区別状況（新規）　　（2019 年度、単位 : 人）

区	就学前児童								小学生		中学生	高校生	計	%
	０歳６ヶ月未満	０歳６ヶ月以上	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	低学年	高学年				
南　区		3	7	4		1			1				16	51.6
緑　区		2	7	1	2				1				13	41.9
港　区			1				1						2	6.5
計	0	5	15	5	2	1	1	0	2	0	0	0	31	
%	0.0	16.1	48.4	16.1	6.5	3.2	3.2	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0		100

注）(1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。
　　(2) 再度、処遇を受けた児童を含む。

表３－19　PT 診断別状況（新規）　　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名	就学前児童								小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳6ヶ月未満	0歳6ヶ月以上	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				1 (1)	1 (1)		1 (1)		2 (1)				5 (4)	16.1
その他の運動障害（症候群含む）		2 (1)	4 (2)	1 (0)	1 (0)	1 (1)							9 (4)	29.0
後天性要因による運動障害													0 (0)	0.0
ダウン症候群		1 (0)	1 (0)										2 (0)	6.5
その他の染色体異常		1 (1)	1 (1)										2 (2)	6.5
運動発達遅滞		1 (0)	6 (1)	1 (1)									8 (2)	25.8
知的障害に伴う運動発達遅滞			1 (1)	1 (1)									2 (2)	6.5
神経・筋疾患													0 (0)	0.0
二分脊椎													0 (0)	0.0
発達障害			2 (0)	1 (0)									3 (0)	9.7
骨・関節疾患													0 (0)	0.0
その他													0 (0)	0.0
計	0 (0)	5 (2)	15 (5)	5 (3)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	31 (14)	
%	0.0	16.1	48.4	16.1	6.5	3.2	3.2	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0		100

注）(1) 新規とは、2019 年 4 月から 2020 年 3 月末の期間に、理学療法を開始した児童である。再度、処遇を受けた児童も含む。
(2) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。
(3) 主診断名は、2019 年 3 月末時点の診断名である。
(4) （ ）内は、訓練開始時の移動能力が移動不可 ～ 寝返りの段階にある児童数をあげた。

表３－20　PT 区別状況（継続）　　（2019 年度、単位 : 人）

区	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
南区	1	3	1	3	2	3	3	5	3	2	26	33.3
緑区	1	6	7	7	3	1	10	4	4	7	50	64.1
熱田区										2	2	2.6
港区											0	0.0
計	2	9	8	10	5	4	13	9	7	11	78	
%	2.6	11.5	10.3	12.8	6.4	5.1	16.7	11.5	9.0	14.1		100

注）(1) 年齢は、学年齢である。
(2) 2018 年度からの継続児の状況を示す。

表３－21　PT 診断別状況（新規＋継続）　　（2019 年度、単位：人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 2019年度生まれ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				2 (2)	5 (2)	3 (1)	3 (2)	12 (7)	8 (4)	5 (2)	9 (5)	47 (25)	43.1
その他の運動障害（症候群含む）	1 (1)	3 (2)	4 (1)		3 (0)	2 (1)	2 (0)			1 (0)	1 (0)	17 (5)	15.6
後天性要因による運動障害				1 (0)						1 (0)		2 (0)	1.8
ダウン症候群		2 (1)	3 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (0)		2 (0)				11 (2)	10.1
その他の染色体異常		2 (1)	1 (0)		1 (0)			1 (1)	1 (1)		1 (0)	7 (3)	6.4
運動発達遅滞		6 (1)	2 (0)	1 (0)								9 (1)	8.3
知的障害に伴う運動発達遅滞			4 (1)	2 (0)								6 (1)	5.5
神経・筋疾患												0 (0)	0.0
二分脊椎												0 (0)	0.0
発達障害		3 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)							10 (0)	9.2
骨・関節疾患												0 (0)	0.0
その他												0 (0)	0.0
計	1 (1)	16 (5)	18 (2)	9 (3)	12 (2)	6 (2)	5 (2)	15 (8)	9 (5)	7 (2)	11 (5)	109 (37)	
%	0.9	14.7	16.5	8.3	11.0	5.5	4.6	13.8	8.3	6.4	10.1		100

注）(1) 2019 年度内に管理をした全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。
(2) 年齢は、学年齢である。「0 歳、2019 年度生まれ」は、2019 年 4 月 2 日以降生まれの児童である。
(3) 診断は、2020 年 3 月末時点（終了児はその時点）の診断である。
(4) （ ）内は、2020 年 3 月末（終了児はその時点）の状態で移動不可 ～ 寝返りの段階にある児童をあげた。

表３－22　PT 児童所属状況　　（2019 年度、単位：人）

区分	在宅	子育て教室	療育グループ	児童発達支援センター	あいあい組	保育園・幼稚園認定こども園	児童発達支援事業所	特別支援学校			小学校		中学校	高校	その他	計
								小学部	中学部	高等部	通常学級	特別支援学級				
人数	6	7	15	16	2	15	6	19	5	9	4	1	2	2	0	109
%	5.5	6.4	13.8	14.7	1.8	13.8	5.5	17.4	4.6	8.3	3.7	0.9	1.8	1.8	0.0	100

注）(1) 2019 年度内に管理した全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。
(2) 終了児はその時点の、継続児は 2020 年 3 月末時点の状況である。
(3)「子育て教室」は月 1 回、「療育グループ」は週 1 回実施している当センターの親子教室である。

表３－23　PT 終了等の状況（2019 年度、単位 : 人）

区　分	目標達成	評価のみ	転居・転院	高校卒業	死亡	中断	計
人　数	11	0	4	2	1	3	21

注）当センターの管理は、高校卒業までである。

表３－24　PT 診断別状況（終了）　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				1	1	1					2	5	23.8
その他の運動障害（症候群含む）			2									2	9.5
後天性要因による運動障害												0	0.0
ダウン症候群		1										1	4.8
その他の染色体異常		1										1	4.8
運動発達遅滞		4	4									8	38.1
知的障害に伴う運動発達遅滞				1								1	4.8
神経・筋疾患												0	0.0
二分脊椎												0	0.0
発達障害			1	1	1							3	14.3
骨・関節疾患												0	0.0
その他												0	0.0
計	0	6	7	3	2	1	0	0	0	0	2	21	
%	0.0	28.6	33.3	14.3	9.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5		100

注）年齢は、終了時の満年齢である。

表３－25　PT 月別状況　（2019 年度、単位 : 人）

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	平均
実人数	69	76	81	81	79	80	81	71	79	77	75	73		76.8
延人数	139	164	184	186	159	153	188	149	152	158	148	155	1,935	161.3
月管理数	84	85	89	92	89	90	92	88	89	92	91	91		

注）(1) 1 人あたりの訓練頻度（延人数÷実人数）は、月平均 2.1 回であった。
(2) 担当児全員の頻度（延人数÷月管理数）は 1.9 回であった。
(3) 訓練回数は、状況に合わせ週 1 回～月 1 回程度である。

(2) 作業療法（OT）

・個別訓練は医師の指導監督の下、作業療法士２名が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。１月からは常勤１名と３回 / 週の非常勤職員で行った。
・行っている治療内容は、脳性麻痺児やその他の疾患による肢体不自由児に対する機能訓練と、発達障害等の児に対する評価や治療・指導などである。
・発達障害等の児に対する治療や指導は主に感覚統合療法を用いて行った。
・観察評価に加え、目的に応じ JMAP、臨床観察、JSI-R、視知覚発達検査を用いた。
・処方は年間 90 名出され新規児童は 72 名であった。OT1 名が１回 / 週の療育グループに参加するため、新規児童の枠数を調整した。そのため年度前半に７か月待ちの状態になった。また１月からの職員体制に備え、９月から枠数を減らしたため、２月には最大 39 名待機の状態があった。
・新規児童は、ASD（自閉スペクトラム症）の児童が全体の 77.8% を占めた。年齢は、年長児 19 名 26.4%、年中児 35 名 48.6%、年少児 16 名 22.2% であった。
・整形外科からの処方は再処方の１名のみであった。
・10 月以降に処方が出た年長の新規児童が数名いた。緊急で枠を設け優先的に予約を入れるなど行ったが、頻度が取れず効果的な訓練が行えなかった。
・訓練頻度確保や、より多くの児童に訓練を行えるように 10 回クール制を継続した。要点を絞った目標設定で終了出来た児もいたが、状況に合わせて治療内容、訓練回数を変更し対応する事が必要な児もいた。
・巡回療育指導を発達相談員とともに行った。

表３－26　OT 区別状況（新規）　（2019 年度、単位：人）

区	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
南　区				2	7	13	2					24	33.3
緑　区				4	22	16	5	1				48	66.7
港　区												0	0.0
計	0	0	0	6	29	29	7	1	0	0	0	72	
%	0.0	0.0	0.0	8.3	40.3	40.3	9.7	1.4	0.0	0.0	0.0		100

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表 3 － 27　OT 診断別状況（新規）　　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年				
脳性麻痺								1				1	1.4
後天性要因による運動障害												0	0.0
二分脊椎												0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺												0	0.0
ダウン症候群												0	0.0
その他の運動障害（症候群を含む）				1								1	1.4
知的障害 不器用を伴う				1								1	1.4
知的障害 多動を伴う												0	0.0
境界域					1							1	1.4
ADHD						7	1					8	11.1
LD												0	0.0
ASD 知的障害を伴う				2	8	5	1					16	22.2
ASD 知的障害を伴わない				2	17	16	5					40	55.6
協調運動障害					3							3	4.2
その他						1						1	1.4
計	0	0	0	6	29	29	7	1	0	0	0	72	100

注）(1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。
(2) ASD+ 境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含まれている。

表 3 － 28　OT 区別状況（継続）　　（2019 年度、単位 : 人）

区	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
南区				2	7	16	1	1	1	1	29	28.7
緑区			1	6	8	42	8	3	2		70	69.3
港区					1	1					2	2.0
計	0	0	1	8	16	59	9	4	3	1	101	
%	0.0	0.0	1.0	7.9	15.8	58.4	8.9	4.0	3.0	1.0		100

注）(1) 年齢は、学年齢である。
(2) 2018 年度からの継続児の状況を示す。

表 3 － 29　OT 診断別状況（新規 + 継続）　　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				3	1		6	4	2	1	17	9.8
後天性要因による運動障害			1	1		2			1		5	2.9
二分脊椎											0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺											0	0.0
ダウン症候群											0	0.0
その他の運動障害（症候群を含む）				1	1	2					4	2.3
知的障害 不器用を伴う				1	1	1					3	1.7
知的障害 多動を伴う											0	0.0
境界域				1			1				2	1.2
ADHD					4	6	1				11	6.4
LD											0	0.0
ASD 知的障害を伴う			1	8	13	21	1				44	25.4
ASD 知的障害を伴わない				7	29	46	1				83	48.0
協調運動障害				2	1						3	1.7
その他					1						1	0.6
計	0	0	2	24	51	78	10	4	3	1	173	100

注）(1) 2019 年度内に管理した全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。
(2) 年齢は、学年齢である。
(3) ASD+ 境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含まれている。
(4) 境界域のものは、不器用をあわせもっていた。

表 3 － 30　OT 児童所属状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区分	在宅	療育グループ	あいあい組	みどりそよ風	児童発達支援センター	保育園・幼稚園認定こども園	児童発達支援事業所	特別支援学校			小学校		計
								小学部	中学部	高等部	通常学級	特別支援学級	
人数	1	0	1	0	12	140	1	9	2	1	3	3	173
%	0.6	0.0	0.6	0.0	6.9	80.9	0.6	5.2	1.2	0.6	1.7	1.7	100

注）(1) 2019 年度内に管理した全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。
(2) 終了児はその時点の、継続児は 2020 年 3 月末時点の状況である。
(3) 保育園・幼稚園に通っている児童が多かった。

表３－31　OT 終了等の状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	就学	高校卒業	中断	その他	計
人　数	59	5	7	4	15	0	5	1	96

表３－32　OT 診断別状況（終了）　　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名		就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺								3	1	1		5	5.2
後天性要因による運動障害							1					1	1.0
二分脊椎												0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺												0	0.0
ダウン症候群												0	0.0
その他の運動障害（症候群を含む）							1					1	1.0
知的障害	不器用を伴う						1					1	1.0
	多動を伴う											0	0.0
境界域								1				1	1.0
ADHD							6	1				7	7.3
LD												0	0.0
ASD	知的障害を伴う				3	3	20	1				27	28.1
	知的障害を伴わない				1	5	46	1				53	55.2
協調運動障害												0	0.0
その他												0	0.0
計		0	0	0	4	8	75	7	1	1	0	96	100

注）（1）年齢は、学年齢である。
（2）ASD+ 境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含まれている。

表３－33　OT 月別状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	92	93	107	103	93	90	90	97	91	85	82	68		90.9
延人数	121	121	141	149	114	110	119	125	115	114	101	95	1,425	118.8
月管理数	110	111	117	123	127	127	126	125	122	110	110	100		

注）（1）実施児１人あたりの訓練頻度（延人数÷実人数）は、月平均 1.3 回であった。
（2）担当児全員の頻度（延人数÷月管理数）は月平均 1.0 回であった。

(3) 言語聴覚療法（ST）

・個別訓練は医師の指導監督のもと、言語聴覚士２名（常勤１名、非常勤１名）が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。
・対象は、主に言語・コミュニケーションに何らかの困難をもつ児童である。
・評価には、国リハ式 <S-S 法 > 言語発達遅滞検査、質問 - 応答関係検査、新版構音検査、ITPA（イリノイ式言語学習能力診断検査）、PVT-R（絵画語い発達検査）、LC スケール、随意運動検査等を用いた。
・新規児童数は 108 名（昨年度 97 名）、児童総数は 167 名（昨年度 180 名）であった。
・新規児童は年長児の割合が高く、全体の 50.0% であった。年中児は 38.9% であった。
・新規診断別状況では ASD の児童が 64.8% であった。
・新規児童の受け入れについては、昨年度に続き年度途中で半年待ちとなり、後半期の処方分は次年度へ開始持ち越しとなった。
・外国籍のケースや、他施設との連携を必要とする家庭フォローを目的に含むケースが数件あった。
・児童の状況に合わせて言語・コミュニケーション指導を個別に行った他、5~9 月に年長児４名を対象に月１回のグループ訓練を行い、コミュニケーションの相互性やルールに則した言動の獲得を目指した。
・言語聴覚士２名は、週１回耳鼻咽喉科の各種聴力検査（BOA・COR・peep-show・プレイオージオ・純音聴力検査・ティンパノメトリ・DPOAE）を担当した。
・巡回療育指導を発達相談員とともに行った。

表３－34　ST 区別状況（新規）　（2019 年度、単位 : 人）

区	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年				
南　区				3	11	16	3					33	30.6
緑　区				2	22	34	15					73	67.6
港　区					1	1						2	1.9
計	0	0	0	5	34	51	18	0	0	0	0	108	
%	0.0	0.0	0.0	4.6	31.5	47.2	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0		100

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表 3 － 35　ST 診断別状況（新規）　　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年				
脳性麻痺							1					1	0.9
知的障害					2							2	1.9
境界域							1					1	0.9
ASD 知的な遅れを伴う				2	6	18	4					30	27.8
ASD 知的な遅れを伴わない				1	12	22	5					40	37.0
LD							3					3	2.8
ADHD					2	3	3					8	7.4
言語発達遅滞					1							1	0.9
ダウン症候群				1	3							4	3.7
構音障害				1	8	7	1					17	15.7
吃音						1						1	0.9
難聴												0	0.0
場面緘黙												0	0.0
その他												0	0.0
計	0	0	0	5	34	51	18	0	0	0	0	108	100

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表 3 － 36　ST 区別状況（継続）　　（2019 年度、単位 : 人）

区	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
南区					4	12					16	27.1
緑区				1	8	31	2	1			43	72.9
港区											0	0.0
計	0	0	0	1	12	43	2	1	0	0	59	
%	0.0	0.0	0.0	1.7	20.3	72.9	3.4	1.7	0.0	0.0		100

注）(1) 年齢は、学年齢である。
(2) 2018 年度からの継続児の状況を示す。

表 3 － 37　ST 診断別状況（新規 + 継続）　　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				1		1	1	1			4	2.4
知的障害					3	3					6	3.6
境界域						1	1				2	1.2
ASD 知的な遅れを伴う				2	18	33					53	31.7
ASD 知的な遅れを伴わない				4	17	36					57	34.1
LD						3					3	1.8
ADHD					4	6					10	6.0
言語発達遅滞				1		2					3	1.8
ダウン症候群				2	3	3					8	4.8
構音障害				3	9	7					19	11.4
吃音						1					1	0.6
難聴											0	0.0
場面緘黙											0	0.0
その他						1					1	0.6
計	0	0	0	13	54	97	2	1	0	0	167	100

注）(1) 2019 年度内に管理した全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。
(2) 年齢は、学年齢である。
(3) 構音障害・吃音に分類した児童の内、57.9% は ASD または ADHD の診断を受けた児童である。

表 3 － 38　ST 児童所属状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区分	在宅	療育グループ	あいあい組	みどりそよ風	児童発達支援センター	保育園・幼稚園認定こども園	児童発達支援事業所	特別支援学校			小学校		計
								小学部	中学部	高等部	通常学級	特別支援学級	
人数	0	0	0	0	14	150	0	2	0	0	1	0	167
%	0.0	0.0	0.0	0.0	8.4	89.8	0.0	1.2	0.0	0.0	0.6	0.0	100

注）(1) 2019 年度内に管理した全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。
(2) 終了児はその時点の、継続児は 2020 年 3 月末時点の状況である。

表３－39　ST 終了等の状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	目標達成	評価のみ	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人　数	24	10	3	0	2	66	2	107

表３－40　ST 診断別状況（終了）　　（2019 年度、単位 : 人）

主診断名		就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺								1				1	0.9
知的障害						1	3					4	3.7
境界域							1	1				2	1.9
ASD	知的な遅れを伴う					3	31					34	31.8
	知的な遅れを伴わない					3	33					36	33.6
LD							3					3	2.8
ADHD							6					6	5.6
言語発達遅滞							2					2	1.9
ダウン症候群					2		3					5	4.7
構音障害					1	6	6					13	12.1
吃音							1					1	0.9
難聴												0	0.0
場面緘黙												0	0.0
その他												0	0.0
計		0	0	0	3	13	89	2	0	0	0	107	100

注）年齢は、学年齢である。

表３－41　ST 月別状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	62	74	83	89	96	93	102	109	101	102	94	79		90.3
延人数	72	114	134	150	143	133	158	160	131	138	130	115	1,578	131.5
月管理数	73	85	95	105	108	117	121	128	129	127	121	106		

注）(1) 実施児１人あたりの訓練頻度（延人数÷実人数）は、月平均 1.5 回であった。
(2) 担当児全員の訓練頻度（延人数÷月管理数）は月平均 1.2 回であった。

(4) 生活支援

① 摂食・嚥下機能訓練

・麻痺等の運動障害に起因する摂食・嚥下障害のある子どもや、運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども（およびその保護者）を対象に、リハビリスタッフ（PT・OT・ST）と栄養士の計 6 名で評価・指導を行った。

・評価・指導は、ⓐ通園・療育グループでの給食、ⓑ摂食訓練会・個別訓練の場において行った。

ⓐ通園・療育グループでの給食

・通園においては、リハビリスタッフ 5 名が各クラスの給食に入り、評価・指導を行った。今年度は通園児 55 名中 15 名、あいあい組児 7 名中 1 名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。

・療育グループにおいては、ひよこグループにリハビリスタッフが入り、全体の様子をみながら必要児にはポイント指導・助言を行った。さらに細かな評価・指導が必要な児童に対しては、摂食訓練会につないだ。

表 3 － 42　給食指導対象児の年齢別状況　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	計
通　園			1	5	9		15
あ い あ い 組			1				1
計	0	0	2	5	9	0	16

注）(1) 年齢は、学年齢である。
(2) スクリーニング的な評価を行った児童は含まない。

表 3 － 43　給食指導の月別状況　（2019 年度、単位 : 件）

区　分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
通　園	17	5	11	15	11	14	15	17	13	12	9		139
あいあい組		2						1		1			4

注）(1) 個人への給食指導を基本とし、クラス全体への指導も 1 件としてカウントした。
(2) 4・5 月は、通園及びあいあい組の全体的評価を中心に実施した。

ⓑ摂食訓練会

・月 2 回年間 22 回の摂食訓練会を設定した。
0~4 歳の児童 21 名に対し、個別指導を中心とした内容で評価・指導を行った。
新患は 14 名であった。指導回数は各々 1~6 回 / 年であった。

・摂食訓練会に通うことが難しい 2 名に対しては個別訓練の枠の中で、評価・指導を実施した。

表３－44　摂食訓練会実施児の診断別状況　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	就学前児童						学齢	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
脳性麻痺			1 (1)		1			2 (1)	9.5
後天性要因による運動障害			1					1	4.8
ダウン症候群	2	3	2 (1)					7 (1)	33.3
その他の染色体異常	2							2	9.5
その他の運動障害								0	0.0
知的障害に伴う運動発達遅滞			1					1	4.8
発達障害		3						3	14.3
運動発達遅滞	2	1	2					5	23.8
計	6	7	7 (2)	0	1	0	0	21 (2)	100

注）(1) 年齢は、学年齢である。
(2) (　) 内はその児童のうち、DQ20 以下で未定頸の児童数をあげた。

表３－45　摂食訓練会月別実施状況　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	2	1	7	6	7	3	8	6	5	4	4	4	57
延人数	2	1	7	7	7	3	9	6	5	4	4	4	59

表３－46　個別枠における摂食訓練月別実施状況　（2019 年度、単位 : 人）

区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数			1	1			1	1		1		1	6
延人数			1	1			1	1		1		1	6

②　学校連携

・学校生活を支援する目的で港特別支援学校と連携をとった。
・PT・OT・ST が学校へ訪問した。
・実際に児童がいる場面で、学校で可能な取り組みの検討を行った。
・学校との連携で得た情報は、個別治療を実施する上でも貴重であった。
・内容は、①特別支援学校とのケース検討
　　6 月 /7 名　　11 月 /8 名
　　②個別治療見学　　16 件

(5) 保護者向け学習会

表 3 － 47　保護者向け学習会実施状況

実施日	内　　容	対　　象	参加人数	担　当
7月24日	感覚統合のおはなし	通園進級児クラス	26名	OT
8月21日	コミュニケーションとことばの発達	通園進級児クラス	16名	ST
11月　6日	コミュニケーションとことばの発達	通園新入児クラス	16名	ST
11月27日	感覚統合のおはなし	通園新入児クラス	20名	OT

(6) 音楽療法（MT）

・個別音楽療法を、週1回（木曜日）に音楽療法士1名が実施した。
・対象は、発達障害児が 71.5% と最も多かった。
・興味を広げることや他者を意識し、三項関係を築くことを目的に実施した。
・対象と目的により、母親も一緒に参加するプログラムを行った。

表 3 － 48　MT 区別状況　（2019年度、単位：人）

区	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
南　区			2	1	1	2					6	28.6
緑　区				5	3	6	1				15	71.4
港　区											0	0.0
計	0	0	2	6	4	8	1	0	0	0	21	100

注）(1) 年齢は、学年齢である。
　　(2) 新規児童は9名であった。

表 3 － 49　MT 診断別状況　（2019年度、単位：人）

主診断名		就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
ASD	知的障害を伴う			1	3	3	6	1				14	66.7
	知的障害を伴わない						1					1	4.8
脳性麻痺						1						1	4.8
知的障害				1								1	4.8
その他					3		1					4	19.0
計		0	0	2	6	4	8	1	0	0	0	21	100

注）年齢は、学年齢である。

表３－50　MT 月別状況　　（2019 年度、単位 : 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	8	9	9	10	11	12	12	9	13	12	7	8	120	10
延人数	11	14	16	17	18	15	18	10	20	17	10	14	180	15

注）１人あたりの訓練は、月平均 1.5 回であった。

第４　通園事業

１　施設概要

(1) 定　　員　　50 名

(2) 対 象 児 童

0 歳から就学前の、障害・発達のおくれを発見された子ども、又はその疑いのある子どもを対象にする。

(3) クラス編成　　原則として生活年齢を基準に編成する。

(4) 通 園 形 態　　親子通園及び単独通園の 2 形態とする。

(5) 親子通園の種類

①　新規親子通園

新入園児を対象として、4 月は週 3 登園、5 月は週 4 登園を行う。

②　定例親子通園

全園児を対象として、毎週水曜日に行う。

(6) 通 園 バ ス

・通園のための送迎車をワゴン車 2 台とマイクロバス 1 台運行する。

・自家用車がない等により登園が困難な親子に、親子登園期間中、及び水曜親子登園日に通園バスでの送迎を行う。（親子バス）

２　療育内容

(1) 子ども像

子ども像とは「こんな子どもに育ってほしい」という私たち保育者のねがいである。

障害をもっていても、ひとりの人間として、障害をのりこえ、たくましく、ゆたかに成長発達してほしい。「かわいがられる障害者」ではなく「自立（律）した障害者」になってほしいというねがいをもち、以下の子ども像をたてた。

・いのちを守り、いのちをつよくする子ども

・ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども

・どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども

・人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども

・人とともに育ちあえる子ども

(2) 療育の視点

社会情勢を見つめて

・現代の子育ての状況、社会福祉の動向などから、地域や社会の実態をとらえ、子どもの発達を保障できる療育づくりをすすめる。

・日本国憲法や子どもの権利条約に学び、子ども一人ひとりの人権を守り、平和の大切さを伝える療育実践をすすめる。

一人ひとりの発達を支援する

・一人ひとりの子どもの発達や障害、これまでの育ちをまるごととらえ、発達課題を明らかにしながら、どの子も集団の中でいきいきと生活し、あそぶことができる療育づくりをすすめる。
・一人ひとりが自分を大切にされる経験を通して、どんな命も尊く、かけがえのないものであることを療育を通して伝える。
・食を通じて（さまざまな形態を意味する）、健康な身体をつくる。また、食育の視点を大切に、日々の食事を家族と共に豊かにする。
・子どもたちが身近な自然や、文化に触れながら、生活経験を広げることを大切にする。また保育者がさまざまなあそびの文化を学び、子どもがドキドキワクワクと心動かすあそびづくりを追求する。
・大人との安心できる関係のもと、もっとあそびたい、できてうれしいなど、子どもの要求を広げ、人との共感しあえる関係づくりをする。
・一人ひとりのよさや、いろんなことに挑戦する中で達成感を積み上げ、集団の中で認められ、自己肯定感が育てられる集団づくりをすすめる。

家族とともに

・子どもを真ん中にして、家族の思いや願いを共有しながら、家族が元気に子育てに向かえる支援をすすめる。
・日々の子育てを担う母親が、子どもの理解を深めながら基本的な子育てを学び、楽しく子育てできるように支援する。
・母親同士が思いを出し合い、子育てへの思いや悩みに共感し、互いに育ちあえる母親集団づくりをする。
・父親、兄弟の交流を通して、仲間づくりをすすめる。

地域生活が豊かになるために

・子どもやその家族が、地域の中で、地域住民として、地域住民と共に暮らしていける地域づくりを、療育を通してすすめる。
・子どもたちのライフステージを見通し、年齢に応じた保育・教育・生活が保障されるよう、地域の関係機関と連携する。

(3) 療育計画

① クラス編成・登園日

(2019 年度)

クラス名	人数	年　齢	担任	登園日・登園時間
つ ば め 組 (進級児クラス)	6	5 歳児　6	2	・進級児 月・火・木・金（単独通園）10:00~15:00 水（親子通園）10:00~13:00 ・新入児 4 月…週 3 日親子通園 10:00~13:00 5 月…週 4 日親子通園 10:00~13:00 6 月…単独・週 5 日通園へ移行 （進級児と同様）
そ ら 組 (進級児クラス)	6	5 歳児　6	2	
に じ 組 (進級児･新入児クラス)	8	4 歳児　5 3 歳児　3	3	
ちょうちょ組 (進級児･新入児クラス)	9	4 歳児　7 3 歳児　2	3	
め だ か 組 (新入児クラス)	8	3 歳児　6 2 歳児　2	3	
たんぽぽ組 (新入児クラス)	9	3 歳児　9	3	
つくしんぼ組 (新入児クラス)	9	3 歳児　7 2 歳児　2	3	

② 日　課

時間	単独通園日		親子通園日	
9	通園バス			
9:45	直接登園の子　登園			
10	通園バス到着		登園	
	健康チェック、着替え	排泄	健康チェック、着替え	排泄
	水分補給		水分補給	
	おはようのつどい		おはようのつどい	
11	あそび・とりくみ		あそび・とりくみ	
		排泄		排泄
	給食準備		給食準備	
	給食		給食	
12				
	歯みがき・たんれん・着替え	排泄	歯みがき・たんれん	排泄
	絵本の読み聞かせ			
			さよならのつどい	
13	午睡		降園	
14				
		排泄		
	着替え、水分補給			
	さよならのつどい			
15	降園			
	通園バス、見守り一時支援（~17:30）			
16				

※生活づくり習間　7/8~8/23
登園時間を 30 分繰り上げ 9:30 登園、15:00 降園にした。

③ **親子登園日（水曜日）の内容**

親子あそび　クラス毎または 2 クラス合同（年長クラスなど）で、親子で楽しくあそんだり、親子で経験を広げる（2~4 回 / 月）

親子プール　クラス毎に園内の温水プールに入る（1 回 /1~2 ヶ月）

母 親 研 修　全クラスの保護者に、所長より「子どもの障害と対応」「自我の発達と対応」、OT より「感覚統合のおはなし」、ST より「コミュニケーションとことばの発達」を行う。4,5 歳児の保護者に就学懇談、希望者に就園懇談を行う。

親　の　会　総会を年 2 回実施した。親の会を年 7 回、役員会を年 3 回行った。

④ **クラスを越えた保育**

年 長 保 育…12 名の年長児に、4 月から 1 年間通して年長保育を行った。野菜の栽培や単独宿泊をとりくんだ。保護者は親子宿泊、サポートブック作成のとりくみを通して、つながりを深めた。

合 同 保 育…後半期、4 歳児以下のクラスが 2 週間に 1 回グループ別保育を行った。

⑤ **給食の状況**

形　　態	人　員
普通食	33
完了 ~ 移行食	7
側方への咀嚼 ~ 歯茎たべ	4
舌つぶし ~ 側方への保持	3
ペースト ~ マッシュ	7
経管栄養（鼻注・胃ろう・他）	2
アレルギー	8
禁忌食材への対応	0

・調理の工夫

手づかみをする / すくう / さす / しっかり噛む…をするために

・一つひとつの食材の目標をはっきりさせることにより、手づかみ、すくう、さすをしやすくする。

・食材を大きめに切り、咬み切る、咬みちぎる、噛むなどをし、一口量のコントロールをしやすくする。

食べやすくするために

・移行食という考え方ではなく、乳児食として普通食との間を埋める調理法を取り入れる。

・ゼリー食（ソフト食）にする。

・トロミを使い飲み込みやすくする。（水分補給・餡の利用）

・子どもの状況に合わせ、固さや調理法、食材を変える。

・手づかみしやすい大きさや固さにする。

・刺しやすい固さ、すくいやすい大きさにする。
・水分、栄養を摂るために、体調に合わせ調理形態の変更及び、高栄養剤の注入等、臨機応変な対応をし、一定量の確保をする。

・食器の工夫

ノンスリップマット、吸盤、食器の重さ、深さなど子どもが使いやすいものに変える。
スプーン、フォークのグリップや柄、角度を子どもが使いやすいものに変える。
コップの高さ、持ち手、ボトル、チューブ、ストローなど子どもに応じて水分補給のしやすいものに変える。
『自分で』『目的をはっきりさせる』など、子どもが意欲的に向かいやすいように（取り皿 / 深さ / 重さ / 形など）工夫する。

・給食指導の状況

子ども－　通園の給食に栄養士・訓練士（PT2 名、OT2 名、ST1 名）が入り、保育者と共に給食指導をし、それぞれの子どもの摂食嚥下、道具操作、姿勢（机・椅子）など状況を捉え合い、必要な関わりや方向性の検討を行った。

食に偏りのある子の捉え、日課、カリキュラムの検討を行い、給食の内容や関わり方、クッキングの中味を具体的に考え、実施した。経管栄養等にて食事をしている子に対し、食材を見る、触れるなど『五感』に働きかけることを意識し、その子たちにとっての経験、食への興味を広げる取り組みを日課（生活）に位置付け、療育の中味を豊かに、食卓を囲む等、積み上げてきた。

親　－　おたより（月 1 回）、給食懇談会、クラス研修、個別懇談、食事調査を必要に応じて行い、啓蒙した。

懇談会、クラスごとの親子給食を通し、「共食」の大切さや、「食文化」を意識して親子給食、弁当を取り組んだ。クラスの状況に応じ、親子クッキングを計画的に取り組み、そのことを通して、家庭での食事作りや子どもとの関わりの幅が広がり、食べることへの興味関心が広がった。

食事調査を取り、親と共に子どもの捉えを深め、前半期の子どもの姿から、後半期のねらいをしぼり、親子のまとめの会食を行った。各クラスより、作り方が知りたい、気になるメニューなど投票してもらい、ひとつのメニューからいろいろアレンジできるような工夫やポイントを添えたレシピ集を発行した。

・給食委員会

月 1 回、各クラスの給食委員と栄養士、調理師で行い、各クラスの子どもの状況をとらえあい家族支援プログラムの検討をした。親子ともに、経験を広げる取り組みとして、各クラスの子どもたちの姿、療育カリキュラムから、クッキングを取り組み、作って食べることを意識的に取り組んだ。

各クラスの子どもたちの状況により、水分補給の内容、食事形態など、園生活の日課の整理を含め子どもたちにとってよりよい生活を考えるクラスケースを年に 2 回取り組んだ。療育として、食べることをどう考え実践していくかを、職員集団で積み上げてきた。

年度末にクラスごとの人気メニューを壁新聞にし、親向けのレシピ集の編集を行った。

⑥ 年間行事

月	日	内容	
4	4（水）	入園式	そよ風入園のつどい。新入児・年長の親子でつどう。 そよ風進級のつどい。進級児の親子でつどう。
	5（木）	進級式 （はじまりのつどい）	
5	17（金）	親子遠足	東山動物園（名養連・名障連招待行事）
6	15（土）	潮干狩り	天候不良のため中止。
	23（日）	お父さんとあそぼう会 （春）	各クラスで普段あそんでいるあそびを父子で楽しむ。午後からはお父さんの力をいっぱい出してもらい、園内の環境整備を行った。その後、交流会を行った。
7	8（月）～ 8/23(金)	生活づくり週間	登園時間を 9 時 30 分にし、園でのあそびの充実や、家庭での過ごし方の検討をとりくむ。
	19（金） 20（土）	年長親子宿泊	親子でそよ風に宿泊し、24 時間の生活を家族とともに捉えた。野菜の収穫や買い物など、親子でとりくんだ。
8	8（木）	海水浴	全クラス、親子で野間海水浴場にて、海であそび経験を広げる。
	31（土）	そよ風夕涼み会 社会館夏まつり	“きんぎょがにげた”の絵本を題材にしたあそびコーナーを親子で楽しむ。その後、社会館全体の夏まつりに参加し、親の会やおやじの会の模擬店を出すなど、家族そろって楽しんだ。
9	18（水）	敬老参観	子どもたちの園生活を祖父母が参観した。
10	2（水） 9（水）	みんなのあそぼう会	前半期療育のまとめの行事。 2 日に 3 クラス、9 日に 4 クラスがとりくむ。 子どもたちのとりくみを家族の方が参観した。
	27（日）	家族うんどう会	親の会と協働でとりくむ。かけっこ、つなひき、ムカデ競争、親の会の応援合戦など家族全員で汗を流し楽しんだ。
11	7（木） 8（金）	年長お泊まり会	年長児がそよ風にて単独で宿泊し、経験を広げる。 通園バスでリニア鉄道館に出かけた。
	10（日）	お父さんとあそぼう会 （秋）	戸田川緑地にて父子で遠足を行った。芝すべりやパラバルーン、遊具あそびを親子で楽しんだ。
	23(土･祝)	社会館バザー	社会館全体の行事。親の会も実行委員会に参加。
12	24（火）	クリスマス会	ハンドベルの演奏を親子で楽しみ、サンタクロースから絵本のプレゼントを受け取った。
2	9（土）	がんばったお祝い会	1 年間の療育のまとめの行事。待機児クラスのあいあい組と合同で行った。
3	19（木）	おわかれのつどい	園児のみで行う送り出しのつどい。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、テラスで風車の花道を作って送り出しをした。
	20(金･祝)	卒園式 （親の会お別れ会）	就学児 12 名の卒園を祝う。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年長児親子と職員のみの参加とし、規模を縮小して行った。親の会お別れ会は中止した。
	25（水）	そよ風のつどい	2019 年度療育終わりのつどい。感染拡大防止のため、全体でのとりくみはせず、クラスごとで保育証書授与式と親子あそびを行った。

⑦ **相談・診療との関わり**

・入園前健診（3 月）、在園児健診（4 月、10 月）を実施した。また、外部歯科に来てもらい、歯科検診（6 月）を実施した。

・重心児や新入児をはじめとした丁寧な健康管理が必要な児を対象に、週 1 回 ~2 ヶ月に 1 回の頻度で、登園前の定期診察を実施した。

・医療的ケアが常時必要な児の単独での療育を保障するために、看護師がクラス療育に参加し、健康状況を担任とともに捉えながら療育及び医療的ケアを行った。

・年 1 回、通園の子どもたちの発達相談を実施し、その後心理士と情報交換、検討を行った。

・給食指導に週 3~4 回訓練士が入り、道具操作や摂食指導を行った。

・月 1~2 回、クラスからの希望により訓練士（PT、OT、ST）が通園療育に参加し、子どもの状況を捉え合うとともに、療育検討を行った。

・医師・看護師・通園職員で月 1 回健康会議を実施した。また、通園部職員に対し、ミニ学習会を行った。（発作・夏の病気）

3　家族援助

親子療育	毎週水曜日（親子あそび、親子プール、園外保育、親の会、研修会） 新入児親子療育（4~5 月　2・3・4 歳児） 親子行事（遠足、海水浴、夕涼み会、夏まつり、父親参観、家族うんどう会、クリスマス会　等） 誕生会（毎月 1 回） 個別療育　新入児（4 月、11 月）進級児（11 月）
クラス懇談会	前半期クラス懇談会（5 月） ※新入児クラスは、保育説明会（5 月） 後半期クラス懇談会（10 月・11 月） 個人懇談・両親懇談（各家庭年 2 回　5 月 ~6 月、11 月に実施）
全体	・調理実習、交流会（栄養士） ・自我の発達と対応（所長） ・子どもの障害と対応（所長） ・感覚統合（作業療法士） ・コミュニケーションとことばの発達（言語聴覚士） ・絵本とおもちゃの展示学習（職員）
クラス研修	・就園懇談会（公立保育園園長、就園児親） ・就学懇談会（教育センター、就学児親） ・特別支援学校見学会（港、南分校）（職員） ・サポートブック作成会（担任） ・たんれんについて（担任） ・排泄について（担任） ・生活リズムについて（担任） ・食べることと感覚について（栄養士） ・感覚について（担任） ・セルフプラン（担任）

4　見守り一時支援

市内の各児童発達支援センターにて 3 時以降の療育を、希望者に対して実施している。そよ風通園部では、定員最大 9 名、最長 5 時 30 分まで受け入れを実施した。

月別利用実績（登録者数 41 名　利用申込 31 名）　（2019 年度）

月	開 所 日	利用者人数	延べ利用者数	日 平 均
4 月	12	9	61	5
5 月	15	9	70	5
6 月	15	17	85	6
7 月	15	20	98	7
8 月	10	15	69	7
9 月	13	21	106	8
10 月	15	19	96	6
11 月	14	19	83	6
12 月	13	19	85	7
1 月	15	19	95	6
2 月	13	21	99	8
3 月	12	18	65	5
合　計	162	206	1012	6

注）4~5 月は、進級児のみ対象、新入児は 6 月より対象とした。

5　2019 年度まとめ

(1) 療育づくり

2019 年度は、定員より 1 割多く受け入れをし、新入児 31 名、進級児 24 名の 55 名でスタートした。7 月に 3 歳児のお子さんが亡くなり、54 名の在籍となった。2 月より次年度通園希望者から 1 名入園し、55 名となった。

あそびづくりでは、堀江先生の「あそびの本質は楽しさと自発性」のことばをもとに職員集団で追及してきた。また、後半期は「集団づくり」の視点も意識し、日々のあそびの中の子どもの姿や要求、気持ちの育ちや集団に向けるまなざしを障害特性も踏まえて丁寧にとらえ、集団づくりにつなげていくことも課題としてみえた。

(2) 家族支援

家族支援では子ども 1 人ひとりの家庭状況をとらえ、具体的な支援につなげるところでは、見えない部分（家庭生活）をとらえられていないこともあり、課題として残った。母の精神疾患や病気で継続した登園が難しい家庭もあり、個別支援や必要なケースについては内部間で連携を取り必要な支援につなげた。また、水曜日の登園保障につなげるため、水曜日の親子バスを運行した。昨年度までは天気等に左右されて登園しづらかった家庭も、安定して通えることにつながった。年々、就労している家庭が増えてきており、見守り一時支援の利用も日々増えている。水曜日の出席数も他の曜日に比べると少ないため、今後の水曜含めた登園保障のあり方について具体化していく必要性がある。

親の会活動は、年に 7 回定例会を行い、各係の活動を報告し行事にむけた準備を取り組んだ。役員を中心に意見を束ねて運営されている。園と 3 回の役員会を行い、調整や意見交換を行った。父親支援として、父親参観、環境整備を行った。進級児のお父さんたちを中心に交流会も雰囲気がよい。お父さん方の参加の場を年に 2 回（春 6 月、秋 1 月）にもうけた。今後も OB のお父さんたちも含めて、お父さん同士のつながりの場をつくっていけるとよい。

(3) 保育者集団づくり

主任を中心としたリーダー会が通園部の方向性を集団的に議論しながら、自主編成の仕事づくりが進められている。中堅の職員が責任を持った仕事づくりが担えるようになり、職員集団としても積み上げられてきている。会議運営もグループに分けて運営し、小さい集団の中で意見を出し合うようにしている。12 月に名古屋市担当課を招いて、名古屋市の施策の方向性について学んだ。地域療育センターの職員として地域の状況、制度、療育システム等について理解を深めていく必要性を感じている。

6　児童の状況

表４－１　障害種別状況　　2019 年度３月末現在

障害種別	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
知的障害		1	7	2	1	11
自閉症			1			1
自閉症＋知的障害		1	16	5	8	30
知的障害＋肢不自由		1	1	1		3
肢体不自由						0
重症心身障害		1	2	4	3	10
その他保健						0
計	0	4	27	12	12	55

表４－２　障害程度別状況

障害程度	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
最重度			1	5	4	10
重度		1	6	3	3	13
中度		1	7	4	4	16
軽度		1	5	0	1	7
非該当		1	8			9
計	0	4	27	12	12	55

注）(1) 身障、愛護両方所持の場合、程度区分は重いほうを基準として分離した。
　　(2) 未所持の児童に対しては発達指数により障害区分を分類した。

表４－３　手帳所持状況　愛護手帳

愛護手帳	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
1度			1	4	4	9
2度		1	6	3	2	12
3度			6	4	4	14
4度		1	5		1	7
未所持		2	9	1	1	13
非該当						
計	0	4	27	12	12	55

表４－４　身体障害者手帳

身体障害者手帳		１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
Ⅰ種	1級		1		3	3	7
	2級			3	1	2	6
	3級			2	1	1	4
	4級						0
	5級						0
	6級						0
Ⅱ種	1級		1				1
	2級						0
	3級		1				1
	4級						0
計		0	3	5	5	6	19

表４－５　区別状況　　2020年３月現在

区	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
南　　区		0	5	2	4	11
緑　　区		4	22	10	7	43
港　　区		0	0	0	1	1
計	0	4	27	12	12	55

表４－６　通園日数

通園日数	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児
1　　日				
2　　日				
3　　日				
4　　日				
5　　日	4	27	12	12
計	4	27	12	12

表４－７　月別児童数

入退園	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
初日在園	55	55	55	55	54	54	54	54	54	54	54	55
月末在園	55	55	55	54	54	54	54	54	54	54	55	55

表４－８　在園期間

在園期間	児童数	平均在園期間
１　年　未　満	2	１年８ヵ月
１年以上２年未満	30	
２年以上３年未満	13	
３年以上４年未満	6	
４年以上５年未満	5	
５年以上６年未満		
計	56	

表４－９　卒退園児の進路先と平均在園期間

卒園	特別支援学校	肢体	4	7
		知的	3	
	支援級		5	5
退園	保育園（公）		7	10
	保育園（民）		3	
	幼稚園（公）		1	2
	幼稚園（民）		1	
	施設入所			

在園期間	卒園	退園
１　年　未　満		
１年以上２年未満		12
２年以上３年未満	4	
３年以上４年未満	5	
４年以上５年未満	3	
５年以上６年未満		
計	12	12
平均在園期間	２年11ヶ月	１年

第５　地域ケア事業

地域ケア事業として、地域連絡調整、巡回療育指導 (施設支援一般指導事業)、訪問療育指導 (訪問健康診査)、学齢療育相談、アフターケア、施設開放、地域啓発、ボランティア養成、を実施している。

１　地域連絡調整

地域の関係機関と連絡調整を図りながら地域療育を推進している。職員の派遣と会議への出席状況は以下のとおりである。

表５－１　地域連絡調整

派　遣　先	内　　容	派遣職員	派遣頻度
南保健センター	のびのび教室	保育士･ケースワーカー	月１回（半日）
緑保健センター	みどりっこ教室	保育士･ケースワーカー	月１回（半日）
緑保健センター徳重支所	ちゅーりっぷ教室	ケースワーカー	月１回（半日）

表５－２　連絡調整会議

会　議　等	開催日・内　容	構成メンバー	出席職員
南区 障害児療育連絡会	2019.7.22 ・現況報告 ・情報交換会	発達センターあつた 南区民生子ども係 保健センター 保育園　幼稚園　認定こども園 南部地域療育センターそよ風	副所長　園長　部長 発達相談員　ケースワーカー グループ担当　保健師
	2019.12.9 研修「スマホ依存と子育て」 講師 : 磯村毅先生 （予防医療研究所代表）	発達センターあつた 保健センター 保育園　幼稚園　認定こども園 南部地域療育センターそよ風	副所長　園長　部長 発達相談員　ケースワーカー グループ担当　保健師
緑区 障害児療育連絡会	2019.7.29 ・全体報告 緑区役所　緑保健センター 南部地域療育センターそよ風 ・現況報告　情報交換	保健センター　民生子ども係 保育園　幼稚園　認定こども園 発達センターあつた 子どもセンターみどり 南部地域療育センターそよ風	副所長　園長　部長 発達相談員　ケースワーカー グループ担当　保健師
	2019.11.8 ・基調講演 「保育を通じた 障害児支援・保護者支援」 講師 : 小川潤子先生 （名古屋文化学園 保育専門学校） ・テーマ別分散会	保健センター 保育園　幼稚園　認定こども園 発達センターあつた 子どもセンターみどり 南部地域療育センターそよ風	副所長　園長　部長 発達相談員　ケースワーカー グループ担当　保健師

会　議　等	開催日・内　容	構成メンバー	出 席 職 員
南区 子育てネット	事業所現況 南区子育てまつり	民生子ども課　保健センター 子育て支援センター 図書館・児童館・幼稚園 南部地域療育センターそよ風	保育士
緑区 子育てネット	1~2 か月に 1 回幹事会 年 1 回赤ちゃんまつりの開催	民生子ども課･保健センター 子育て支援センター 図書館・児童館・幼稚園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長

表 5 － 3　保健センター連絡会

会　議　等	開催日・内　容	構成メンバー	出 席 職 員
南保健センター連絡会	2020.1.27 事業報告・地域の課題などを共有	南保健センター 南部地域療育センター	副所長 ケースワーカー 発達相談員 グループ担当

表 5 － 4　事業所説明会

会　議　等	開催日・内　容	構成メンバー	出 席 職 員
事業所説明会	2019.6.7 そよ風の事業説明・見学	南保健センター 南区・緑区内相談支援事業所	副所長 ケースワーカー 相談支援専門員 通園職員

表 5 － 5　親の集い

会　議　等	開催日・内　容	構成メンバー	出 席 職 員
南保健センター 発達に支援が必要なお子さんを持つ親の集い	2019.5.20・7.22・10.4 2020.2.7 講話・座談会	南保健センター 南部地域療育センターそよ風 手をつなぐ育成会 講師	ケースワーカー
緑区 子どもの発達が気になる親の集い	2019.7.12・9.13・12.6 2020.2.7 講話・座談会	緑区障害者基幹支援センター 南部地域療育センターそよ風 緑保健センター 講師	部長 ケースワーカー 言語聴覚士

表５－６　いこいの家事業

会　議　等	開催日・内　容	構成メンバー	出 席 職 員
緑区 いこいの家事業	2019.10.28 そよ風の内容説明・座談会	緑区いこいの家（葡萄の木） 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー
	2020.2.10 就園に向けて準備すること 座談会		グループ担当

ケース会議

サポートチーム会議、病院・相談支援事業所・保健センターが主催するケース会議に出席した。（6 件）

南部地域療育センターそよ風が会議を主催した。（1 件）

出席者はケースワーカー・相談支援専門員・発達相談員・看護師・理学療法士・通園園長・通園指導員。

2　巡回療育指導

保育園又は幼稚園、学校、地域の関係機関に通っている児童について各種の相談に応ずるとともに、保育・教育あるいは家庭療育に関する必要な助言及び指導を行った。なお、園からの申し込みにより当センターに受診歴の無い児童についても、助言及び指導を行った。

〈対象児〉

・通園施設から保育園・幼稚園へ就園した児童及び小学校に就学した児童

・保育園・幼稚園又は学校から相談を受けた児童（未受診児を含む）

表５－７　月別巡回療育指導状況　（2019 年度、単位 : 件、人）

区　分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
件　　数	5	7	7	5		4	9	10	9	5		1	62
人数（受 診 児）	7	10	13	5		5	3	13	10	5		1	72
人数（未受診児）	0	0	0	6		6	19	20	16	8		0	75

注）一施設に 2 回以上訪問したのは保育園 5 ヶ所、特別支援学校 1 ヶ所の計 6 ヶ所。

表５－８　巡回療育指導施設数　（2019 年度、単位 : ヵ所）

区　分	南　区	緑　区	港　区	天白区	計
保　育　園	6	31		2	39
幼　稚　園	2	3			5
こ ど も 園	2				2
学　　校	2	5	1		8
そ　の　他					0
計	12	39	1	2	54

表５－９　巡回療育担当スタッフ　　（2019 年度、単位 : 件）

ケースワーカー	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	グループスタッフ	通園スタッフ	看護師	その他	計
12	41	7	14	8	8	20	1	0	111

表５－10　児童の状況　　（2019 年度、単位 : 人）

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学校	中学校	高校生	計
知的障害		1		3	2		3			9
自閉症			1	4	10	1				16
自閉症＋知的障害			2	1	9		6			18
肢体不自由				1						1
肢体不自由＋知的障害			1	1			3			5
言語発達障害等			1	2						3
重症心身障害							11	1	2	14
未決定			1	5						6
計	0	1	6	17	21	1	23	1	2	72

3　訪問療育指導

・重症児や初診後早期の運動障害児に対し、家庭環境や健康状態の把握、療育技術の指導を目的に行った。

・障害児相談支援事業として、相談支援専門員と CW とで訪問を行った。

・入院中の重症児は、必要に応じ病院とのケース会議に参加した。

〈対象児〉

・重症心身障害の児童　　・児童相談所との連携が必要な児童

・通所が困難な児童　　・早期受診の児童

・長期入院児童　　・療育上家庭での指導が必要な児童

表５－11　訪問療育指導月別状況　　（2019 年度、単位 : 人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数				3	1		1	2	1	1			9

表５－12　訪問療育担当スタッフ　　（2019 年度、単位 : 人）

ケースワーカー	リハ	療育スタッフ（保育士）	看護師	相談支援専門員	他	計
6		3	4	5		18

表５－13　訪問療育児童の状況　（2019 年度、単位 : 人）

診療区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
ダウン等染色体異常								0
脳性麻痺（重心）		1		1	1		2	5
精神発達遅滞				1				1
自閉症				1				1
知的障害	1							1
運動発達遅滞			1					1
計	1	1	1	3	1	0	2	9

注）（1）その他年齢 : 小学生まで
（2）脳性麻痺（重心）は水頭症を含む。

4　通園部アフターケア

あそび虫クラブ

月に１回、土曜日の午前中に、そよ風を卒園して特別支援学校または特別支援学級に在籍をしている学齢期の親子を対象に、学年齢に分かれて様々なプログラムを実施した。5~7 月は、夏の宿泊に向かうプログラム、9~3 月は子どもたちの興味や余暇を充実させることを狙いに、３つのサークルから選んでとりくんだ。また、小学校低学年は親子で様々な経験を広げることを目的にリトルあそび虫を実施した。

表５－14　リトルあそび虫（小学校低学年）

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
5/11	しあわせ村　プール	3組	1/25	パンづくり	10組
7/20	デイキャンプ	8組	3/14	リズムあそび	中止
9/14	陶芸	8組			
11/ 2	セントレア	6組			

小学４年生から高校３年生のサークル別

表５－15　太鼓サークル

実施日	プログラム	参加人数
9/28	太鼓	8名
10/26	太鼓	7名
11/ 2	太鼓	9名
12/ 7	太鼓	10名
1/25	太鼓	6名
2/29	太鼓	中止
3/14	太鼓発表会　まとめ	中止

表５－16　スイムサークル

実施日	プログラム	参加人数
9/14	そよ風プール	5名
10/ 5	そよ風プール	5名
11/ 2	そよ風プール	6名
12/ 7	そよ風プール	6名
1/25	そよ風プール	7名
2/29	そよ風プール	中止
3/14	そよ風プール　まとめ	中止

表５－17　クッキングサークル

実施日	プログラム	参加人数
9/14	フルーツサンドどらやき	５名
10/ 5	ピザ	３名
11/ 2	かぼちゃタルト、かぼちゃきんとん	５名
12/ 7	苺のケーキ	２名
1/11	中華まん	４名
2/29		中 止
3/14		中 止

＊２、３月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各プログラムを中止した。

長期休暇プログラム

①岐阜県郡上市小那比２泊３日キャンプ

7/29~7/31　社会館野外活動センター　小学生９名　中高生５名

②小那比デイキャンプ

7/20　８家庭

③ 8/10~8/11　そよ風１泊２日プログラム　小学生４名　中高生３名

5　アフターケア

卒園児・転園児を対象に下記のとりくみを実施した。

表５－18

とりくみ	実施日	対　象	数	内　容
学校・保育園・幼稚園訪問	4～6月	転園・就学児	24名 1回	そよ風を卒園、転園したお子さんの引き継ぎや状況把握のため、学校や保育園、幼稚園への訪問を行った。
アフターのつどい	5/9	2018年度転園児	10名 (母)	就学してからの様子や、今の我が子の状況や悩みなどを交流した。
	5/14	新１年生になった卒園児、転園児	12名 (母)	
18歳のつどい	2/29	2019年度 18歳を迎える子	中止 (10組予定)	これまでの療育歴や子育てを振り返り、18歳までの区切りとする予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、来年度へ延期した。

6　そよ風広場

土曜日の午前中に、そよ風通園、デイサービス ACT、デイサービスみどりそよ風から転園した就学前の親子と、通園の親子を対象に、様々なプログラムを企画し、親子で楽しく休日を過ごすことや、経験を広げることを大切に取り組んだ。また、保育園や幼稚園での悩みをお母さん同士が話せる場や、親御さん同士のつながりを大切に交流をした。

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
5/11	ふうせんあそび	32 組	12/ 7	音楽あそび	14 組
6/22	パンづくり　1 回目	18 組	1/25	もちつき　2 回目	21 組
7/20	パンづくり　2 回目	22 組	2/29	トランポリンハウス	中 止
9/14	交流会	10 組	3/14	いちご狩り	中 止
10/12	芋ほり	台風の為中止			
11/ 2	もちつき　1 回目	13 組			

＊2、3 月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各プログラムを中止した。

7　兄弟プログラム

2019 年度通園部に通っている子ども及び以前に通園部に通っていた子どもの小、中学生の兄弟を対象とし、2 ヶ月に 1 回集ってあそびなどのプログラムを行った。8 月には 1 泊 2 日のキャンプを実施した。11 月には社会館バザーで兄弟の店を出店した。

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
6/22	自己紹介キャンプに向けて	21 名	11/23	社会館バザー出店	16 名
8/ 2	キャンプ準備	22 名	12/ 7	クリスマス会	16 名
8/10,11	キャンプ	23 名	2/29	スポーツ大会	コロナのため中止
10/ 5	バザーの準備	17 名			

8　施設・プール開放

・温水プールは、幼児水泳教室に開放し、年 23 回のべ 358 名が利用した。また、2 か所の知的障害者更生施設に開放し、年 18 回のべ 105 名が利用した。

・同法人内の名南ユースセンター ACT, 活動センターねーぶるにも開放し、年 11 回のべ 170 名が利用した。

・そよ風に関わる小、中学生の親子を対象に木曜日にプール開放をし、年 12 回のべ 26 名が利用した。

9　地域啓発・ボランティア育成

(1) 夏まつり、社会館バザーなど行事、月１回の千鳥学区なごやか給食会（老人給食）を通して施設利用者への理解を広げた。

(2) ボランティア育成

・年度初めに、大学、ボランティアセンター、社協などにボランティア募集を行った。

・保育ボランティア、あそび虫クラブボランティア、行事ボランティアを含め、46 名の登録があった。

・実習生に声を掛け、実習後もメールでボランティアへの参加を呼び掛けた。

第６　児童デイサービス

１　デイサービス ACT（児童発達支援事業所）

(1)　あいあい組（乳幼児２歳児クラス）利用状況

表６－１

月		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
乳幼児	契約数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
	開所日数	4	7	8	7	6	6	8	7	6	6	7	4	76
	利用者数	20	35	32	36	29	29	46	39	21	25	38	21	371
	平均利用	5	5	4	5.1	4.8	4.8	5.8	5.6	3.5	4.2	5.4	5.3	4.9

・週２回、（月、木）で実施し、通園待機児７名の親子を対象とした。
・地域の他事業所を利用している方もおり、登園が継続にならなかった。

(2) 児童の状況

表６－２　障害種別状況（単位：人）

障害種別	人数
知的障害	4
知的障害＋自閉症	1
自閉症＋知的障害	1
知的障害＋肢体不自由	
肢体不自由＋知的障害	
重症心身障害児	
肢体不自由児	
自閉症	1
計	7

表６－３　手帳所持状況（単位：人）

愛護手帳		身体障害者手帳		
１度		Ⅰ種	１級	
２度	1		２級	
３度	1		３級	
４度	3	Ⅱ種	１級	
未所持	2		２級	
			３級	
計	7			

表６－４　進路状況（単位：人）

進路先	人数
児童発達支援センター	5
保育園（公立）	2
保育園（民間）	
幼稚園	
県外へ転居	
合計	7

2　デイサービス ACT（放課後デイサービス）

対　　象　　南・緑区内居住で障害を持つ小学 1 年生 ～ 高校 3 年生の児童

実 施 日　　月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日

土曜日（第 2）…　9:30~15:30

表 6 － 5　登録児利用状況

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
契 約 数	25	26	26	26	26	26	26	26	27	27	27	27	
開所日数	17	23	21	23	13	19	20	20	17	18	19	17	227
利用者数	97	135	130	158	80	119	120	119	108	111	100	86	1363
平均利用	5.7	5.9	6.2	6.9	6.2	6.3	6.0	6.0	6.4	6.2	5.3	5.1	6.0

表 6 － 6　　（単位 : 人）

曜　　日	利用者登録数	利　用　者　学　年											
		小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
月 曜（中 高 生）	4								1		1	1	1
火 曜（小 学 生）	9	2	2		2	2	1						
水 曜（小 学 生）	12	2	6	1	2		1						
木 曜（中 高 生）	4							2				1	1
金 曜（小 学 生）	10	2	2		2	2	1	1					
土 曜（第　2）	9	1	3				2	1			1		1

長期休暇プログラム等の実施

①長期休暇時に開所時間を延長し、公共交通機関を利用したお出かけや、クッキング等を行った。

②そよ風あそび虫プログラムと合同で、小 4~ 中 3 を対象に 2 泊 3 日のキャンプを行った。

7/29~7/31　社会館野外活動センター　参加者 7 名

3　デイサービスみどりそよ風（児童発達支援事業所）

(1) いるか・くじらグループ（2 歳児クラス）利用状況

表 6 － 7

月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
乳幼児	契約数	13	12	12	10	10	10	10	11	11	11	11	11	
	開所日数	16	20	19	21	14	18	20	20	18	19	17	10	212
	利用者数	37	76	78	71	47	52	69	67	55	65	67	54	738
	平均利用	2.3	3.8	4.1	3.3	3.3	2.8	3.4	3.3	3	3.4	3.9	5.4	3.4

・そよ風の就園前グループを経過した児童で、週 2 回の療育を希望する親子を対象に実施。
・2 歳児 11 名週 2 回（月、木）、（火、金）で実施。
・5 月に 1 名終了、7 月に 2 名終了。11 月に 1 名新規契約。

(2) 児童の状況

表 6 － 8　障害種別状況（単位 : 人）

障害種別	人数
知的障害	
知的障害＋自閉症	3
自閉症	1
自閉症＋知的障害	1
言語発達遅滞	1
その他	2
計	11

表 6 － 9　手帳所持状況（単位 : 人）

愛護手帳	
1　度	
2　度	
3　度	
4　度	2
未所持	9
計	11

表 6 － 10　進路状況　（単位 : 人）

進路先	人数
保育園（公）	
保育園（公・発達支援）	3
保育園（民）	1
幼稚園（公）	1
幼稚園（民）	3
児童発達支援センター	3
その他（在宅）	
計	11

4　デイサービスみどりそよ風（放課後等デイサービス）

対　　象　　緑区、南区内居住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学１年生～中学３年生

実 施 日　　月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日　…　14:30~17:30

土曜日（第２）…　9:30~15:30

表６－11　登録児利用状況

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
契 約 数	23	23	23	24	24	24	24	23	23	23	25	23	
開所日数	16	20	19	21	14	18	20	20	18	19	17	17	219
利用者数	67	89	79	99	50	79	85	84	88	77	62	53	912
平均利用	4.1	4.5	4.2	4.7	3.6	4.4	4.2	4.2	4.9	4.1	3.6	3.1	4.2

表６－12　　（単位：人）

曜　日	利用者登録数	利　用　者　学　年								
		小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
月　曜	6		1		2	3				
火　曜	5	1	2	2						
水　曜	5	2	2	1						
木　曜	7	1	1	1	2	1	1			
金　曜	5		3		1			1		
土曜（第２）	9		1			4	1	1		2

長期休暇プログラム等の実施

①そよ風あそび虫プログラムと合同で、小４~中３を対象に２泊３日のキャンプを行った。

7/29~7/31　社会館野外活動センター　参加者７名

第７　障害児相談支援事業所

障害児相談支援事業所そよ風

表７－１　管理数　　（単位：人）

居住区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児	8歳児	9歳児	10歳児	合計
南　区	1	6	12	8	3	8	6	7	4	6	1	62
緑　区		5	30	34	12	18	7	19	17	7	2	151
港　区								2	1			3
計	1	11	42	42	15	26	13	28	22	13	3	216

表７－２　支援実績　　（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	17	13	12	13	4	7	12	16	10	16	24	20	164
本計画作成	15	77	21	13	10	9	18	13	13	4	6	8	199
モニタリング	18	22	15	14	10	42	44	20	22	12	19	12	250
家庭訪問	58	53	47	53	34	66	74	60	50	36	61		592

表７－３　基本相談　　（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家庭訪問	10	1	4	7	2		2	3	3		1	3	36
来　所	2	4	4	3	5	10	2	6	3	3	5		47
その他	5	7	5	6	7	7	15	41	27	25	42		187

表７－４　基本相談の内容　　（件）

サービス利用等	子どもの発達・障害	子育て	幼・保・学校など	家　族	子どもの余暇等	その他
115	4	25	42	12	3	3

表７－５　会議等

	開　催　日	構成メンバー	参加職員
障害児相談支援運営連絡会	2019. 7. 1 2019.12.23	名古屋市 中央療育センター 各地域療育センター 各児童発達支援センター あけぼの学園 基幹相談支援センター	相談支援専門員
南区自立支援連絡協議会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 南区役所福祉課 南保健センター	相談支援専門員
緑区自立支援連絡協議会 相談部会定例会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 緑区役所福祉課 緑保健センター	相談支援専門員
ケース会議・サービス調整会議	4回 （必要に応じて 開催・参加）	関係機関	相談支援専門員

資料　センター利用者数の 10 年間の推移（2010 年度～ 2019 年度）

新規相談件数（区別）　（単位 : 件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
南　区	112	114	97	118	118	103	105	127	126	144
緑　区	202	235	258	278	342	273	290	327	291	284
熱田区	39	45	43	44	10	0	0	0	0	0
港　区	9	11	5	9	5	9	5	7	7	4
その他	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
計	363	407	403	450	475	385	400	461	424	432

新規相談件数（年齢別）　（単位 : 件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0 歳	18	17	23	12	13	16	23	13	16	12
1 歳	37	45	41	38	50	33	28	47	47	42
2 歳	110	142	120	132	148	113	87	154	127	143
3 歳	105	93	112	149	158	113	135	132	115	121
4 歳	40	52	50	53	43	49	58	56	59	53
5 歳	38	36	33	51	51	53	51	42	49	46
6 歳	11	22	23	13	12	8	18	16	11	15
小学校低学年	4	0	1	2	0	0	0	1	0	0
小学校高学年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	363	407	403	450	475	385	400	461	424	432

継続相談延べ件数　（単位 : 件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件　数	913	918	986	1063	1175	1123	1137	1063	1000	1010

療育グループ延べ参加人数　（単位 : 人）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
就園前グループ	3199	3456	3970	4132	3760	3860	3172	2960	3411	2797
並行グループ	420	494	450	585	679	564	581	561	397	412
計	3619	3950	4420	4717	4439	4424	3753	3521	3808	3209

小児科診察件数　　（単位 : 初診は人、再診は件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
初　診	363	407	403	450	475	385	400	461	424	432
再　診	196	202	201	255	262	321	362	453	563	563
計	559	609	604	705	737	706	762	914	987	995

整形外科科診察件数　　（単位 : 初診は人、再診は件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
初　診	53	58	57	54	47	47	55	51	44	45
再　診	1140	1262	1094	988	922	900	587	942	538	564
計	1193	1320	1151	1042	969	947	642	993	582	609

精神科診察件数　　（単位 : 初診は人、再診は件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
初　診	6	6	11	9	12	4	4	4	4	2
再　診	93	79	50	42	71	75	55	69	77	57
計	99	85	61	51	83	79	59	73	81	59

耳鼻科診察件数　　（単位 : 初診は人、再診は件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
初　診	171	206	215	156	217	184	149	90	190	145
再　診	404	474	587	478	488	442	274	178	223	262
計	575	680	802	634	705	626	423	268	413	407

理学療法訓練延べ件数　（単位：件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件　数	2848	3052	2915	2891	2531	2436	2411	2239	1953	1935

作業療法訓練延べ件数　（単位：件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件　数	1166	1100	1607	1832	1802	1605	1849	1689	1691	1425

言語聴覚療法訓練延べ件数　（単位：件）

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件　数	1004	1382	1780	1678	1301	1813	1532	1866	2034	1578

巡回療育実施件数（実人数）　（単位：人）

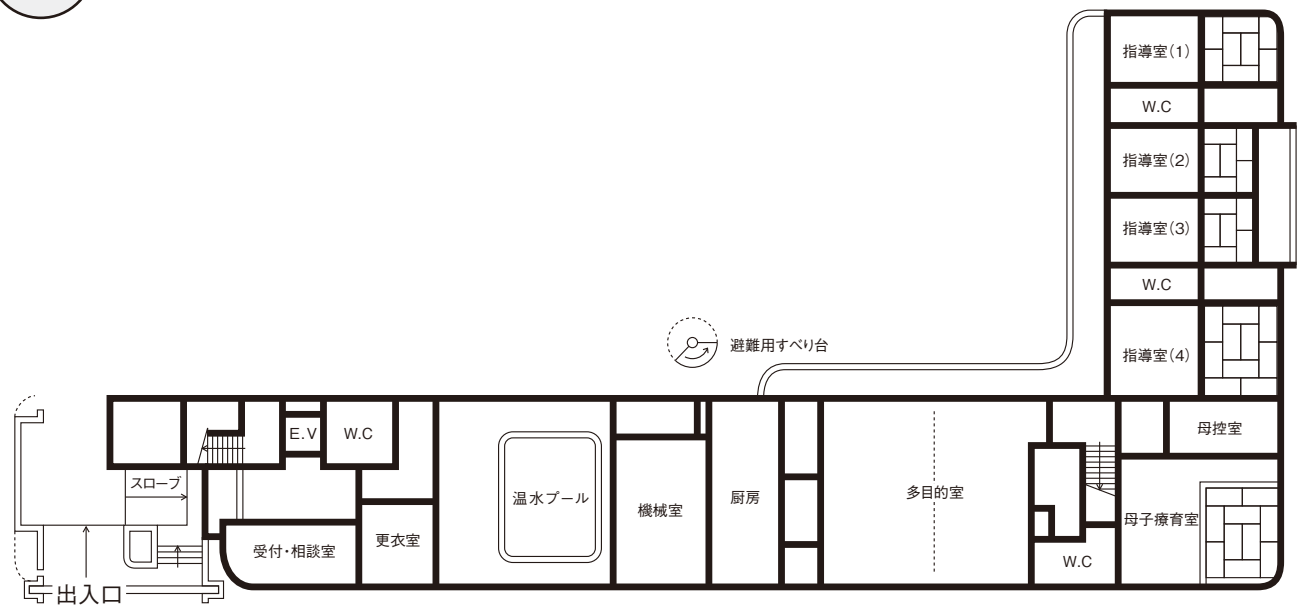
年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件　数	97	143	213	206	168	172	159	206	163	147

訪問件数　（単位：件）

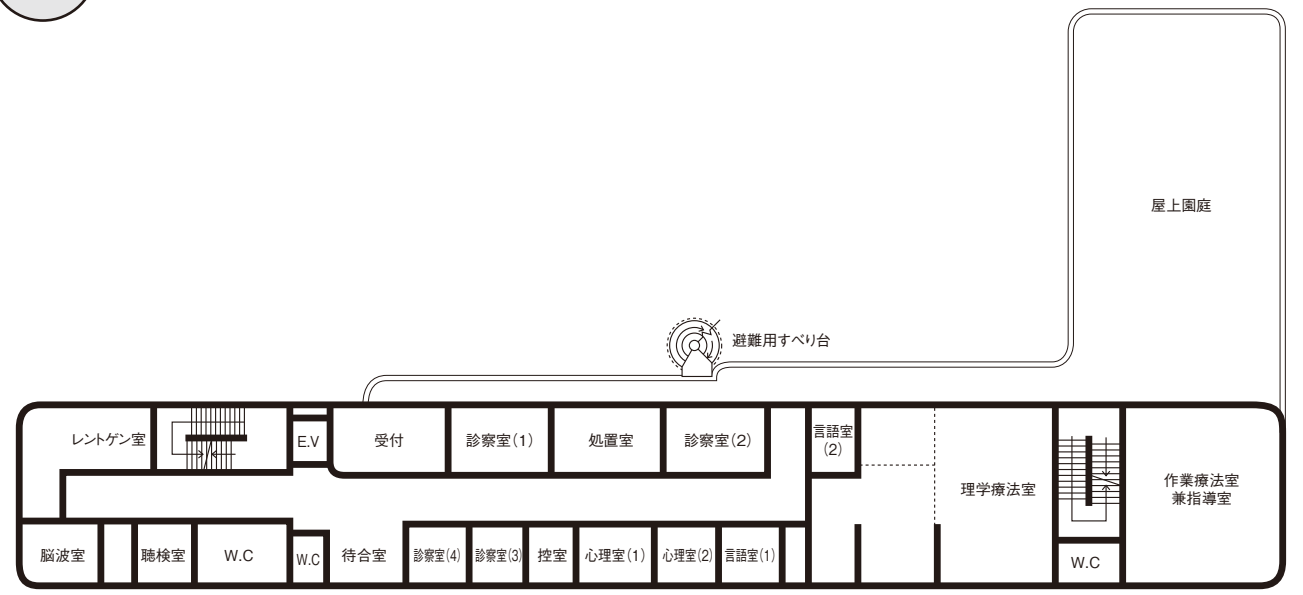
年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
回　数	12	23	17	19	26	14	10	21	22	9

平　面　図

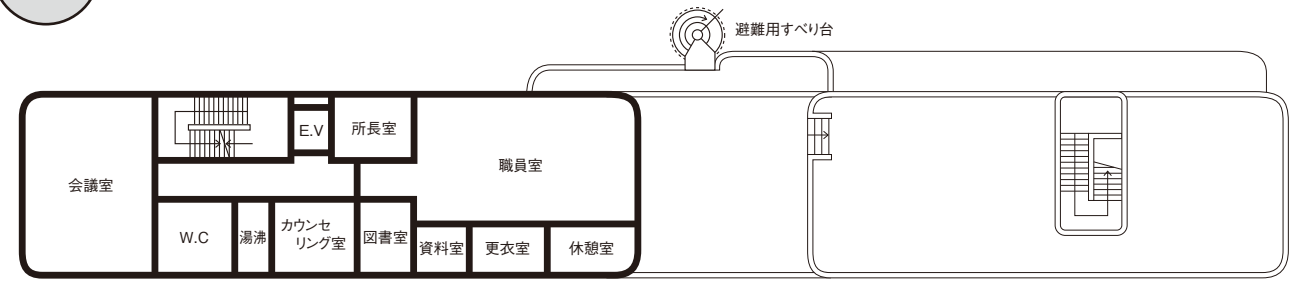
1階


指導室(1)
W.C
指導室(2)
指導室(3)
W.C
指導室(4)
避難用すべり台
E.V
W.C
スロープ
温水プール
機械室
厨房
多目的室
母控室
母子療育室
受付・相談室
更衣室
W.C
出入口

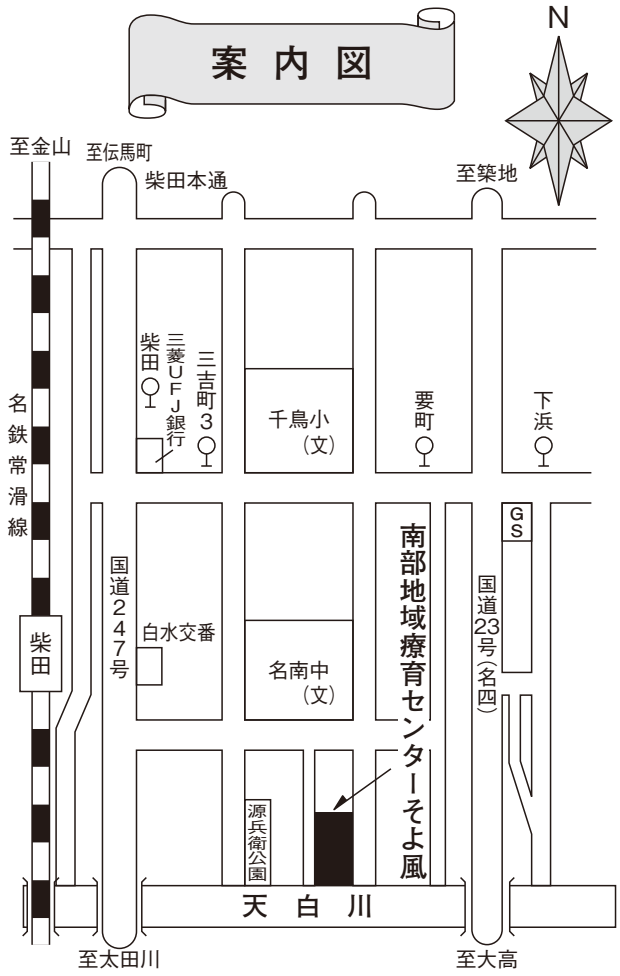
2階


屋上園庭
避難用すべり台
レントゲン室
E.V
受付
診察室(1)
処置室
診察室(2)
言語室(2)
理学療法室
作業療法室兼指導室
脳波室
聴検室
W.C
W.C
待合室
診察室(4)
診察室(3)
控室
心理室(1)
心理室(2)
言語室(1)
W.C

3階


避難用すべり台
会議室
E.V
所長室
職員室
W.C
湯沸
カウンセリング室
図書室
資料室
更衣室
休憩室

案内図



交通機関	
	名鉄常滑線　柴田下車　東に徒歩10分
	市　バ　ス　要町下車　南に徒歩3分

2020年7月発行

発行者　社会福祉法人名古屋キリスト教社会館
南部地域療育センターそよ風
〒457-0805　名古屋市南区三吉町6-17
TEL 052(612)3357・FAX 052(612)3411

南部地域療育センターそよ風は、
すべての子どもの成長発達を願い
早期療育、地域療育をすすめます。